

# SPRING 5

大手前高校自治会

## 特集のことば

いくら不平をもつていても、いくら考えていても独言でははじまらない。声を大にしてさけび、みんなが聞き、みんなで考えるところから発展がはじまる。

この紙きれの中には独言が眠っている。君がページをめくった時対語がはじまる。君は共感を覚えるかもしれない。批判もするだろう。しかしそれは独言であつてはならない。友達とも先生とも大いに語りあおうではないか。そこそこそんな紙きれじゃないほんとうのスプリングが生まれる。本源であり飛躍であり、春であるそんなスプリングが生まれる。

特集

高校生活に想う

座談会

「高校生活を考える」

高校予備校化に思う

安田明美

4

高校は予備校化していない

入江純一

9

高校生活と自分

浅井信義

10

先生方に一言

西口賢二

12

学生生活に思う

中道康夫

14

エリート意識

馬谷忠昌

16

集団とエリート

仲井徹

18

目隠しをつけた馬

西橋健

19

我は主張する

大前吳之

21

後記

大前吳之

22

活動報告・その他

会長(前期)雑記

石原達士

26

会長(後期)雑記

碩省三

28

反省するの事

副会長

小西紀一

31

各部活動報告

書記

河野裕利

33

規約改正を顧りみて

加藤薫

38

規約改正以前と以後

金沢陽子

40

校内大会における不戦勝

金沢陽子

48

代表会議事録

44

クラブ紹介

54

このべえじから君の得ること

55

文化系クラブ

56

運動系クラブ

58

「クラブと私」

寺西浩子

68

先生方紹介

71

人世三つの楽しみ

71

学習

大数浩

74

僕である君から僕である僕への手紙

斎藤雄久

76

学者の夢より醒めたカント

直本真理

81

少し考えてみよう

吉田春陽

81

宇宙

安井由美子

83

一個の分子

曲直部久子

84

覚え書きより

川原大

86

高校生総立ち運動のすすめ

90

関係のない話

カギモトキヨシ

91

失敗の記

95

詩

秋の日に：25 すべてはそこに見いだされた：42 私は道を歩く時：75

## 高校生活を考える

## 校長先生を囲んで

灰色の高校生活というが  
大手前の現情と

今後の姿は

会長―今度のスプリングで高校生活の  
何かの問題点を追求してみよう  
という事になりました。

それでこの座談会を開きました。  
まず最初にとり上げたい問題は、  
現在、高校は予備校化している  
かどうか。二つ目が、現在のL  
・HRの状況。例えば時間が有  
効に使われているか、先生と生  
徒との交流が円滑であるかどう  
か、というような問題で、まず  
最初の問題について話し合つて  
下さい。

けれども、まあ先生ものんきや  
生徒ものんきやし……  
校長―よく家族の人なんかみえて話  
しをした時、大手前はよく勉強  
をやらせませすなあという事は聞  
きますね。

小西―僕は、この学校は比較的  
自由で、世間でさわざたてているほど  
予備校化しているとは思いません

会長―現在の大手前だつたら、勉強も  
そつちのけにクラブ活動をやっ  
ている人もいるが、勉強する人  
はこの高校生にも負けない位  
やつています。

校長―君達の卒直な意見を聞かせては  
しい。

小西―僕は、この学校は比較的  
自由で、世間でさわざたてているほど  
予備校化しているとは思いません

校長―昔の話では、かなり自由だとい  
う事ですけれど僕達としても、  
これが予備校だというふうには  
決してしてはいないと思います。  
まあ中には、家でずい分やつて  
いる人もいます。よく  
遊びよく学ぶという事が確かに

あります。

鍵本―でもその自由さが放任のような  
状態になつていと思うんです  
が。自由であるというからには、  
もつと実のなる自由であつてほ  
しい。今はあまり言われていま  
せんが、もし自治会祭などで私  
服が許されているなら、大手前  
生という固苦しい肩書をはずし  
て、明かるい面とか茶目つ気と  
か出てきてお互いに人間的なつ  
ながりがもてるのではないでし  
ようか。そんな自由であつてほ  
しい。

校長―これは現在、社会全体にある共  
通した問題だと思つて  
だからいろいろな事を修得する  
必要がある。もちろん、自分で  
考へ行動すべきだが、それでは  
方向を誤まつたりするから、先  
生は勉強を教えるだけでなく精  
神面をも忠告、指導して下さる  
よう。

だが他の指導になつたら先生と  
生徒とかいう問題ではなくなる  
のではないだろうか。

川原―東縛に對立するような、自由を  
忘れる為の放縦感はあるかもし  
れない。東縛というのは勉強を  
やれやれといわれているから誰  
でも感じているものと思つて、  
大角―自由までとはいかなくて、ただ  
解放だけを望んでいるようだ。  
自由という言葉をみんなしつか  
りつかんでいないのではないだ

川原―マツクスウェーバーの「職業と  
しての学問」によると大学の教  
師は、教師ではあるが、指導者  
ではあり得ないと書いてある。  
指導者という事は、先生と生徒  
という関係ではなくて、人間と  
人間という感じになつてくる。

鍵本―具体的には？  
それによつて自然に大学へ入る

大角―自由までとはいかなくて、ただ  
解放だけを望んでいるようだ。  
自由という言葉をみんなしつか  
りつかんでいないのではないだ

川原―マツクスウェーバーの「職業と  
しての学問」によると大学の教  
師は、教師ではあるが、指導者  
ではあり得ないと書いてある。  
指導者という事は、先生と生徒  
という関係ではなくて、人間と  
人間という感じになつてくる。

鍵本―具体的には？  
それによつて自然に大学へ入る

という事です。

大角―質実剛健という事は今も必要だ  
と思うんですが……

校長―そりやそうだ。又、個々の個性  
をのぼす事も必要だ。僕自身は  
教育というものは、お辞みたい  
に唱えるものではなくむしろ言  
わず語らずのうちに実際に行動  
によつて証明する。

言いかえれば先生自身が、完全  
ではないが、理想的な生活を送  
る事によつて生徒が納得する。  
これが本當の教育だと思ふ。

○ ○ ○ ○ ○

大角―今度は生徒の事なんです、大  
手前の生徒はある程度自信を持  
つていふと思うんですが、自信  
を持つのはまあいいんですが、  
それが過剰で、しかも自分の意  
見を持つていふならともかく持  
つていふのに、自分の意見を  
ただ押し通そうとする。従順な  
ところが全然ないんですね。

鍵本―それはそれで、若さの特権とし

ていいんですが、それよりも自  
由な、かつ責任感を持つ立派な  
人間を育てるために、絶対自我  
の相互練磨の場として、今度企  
画されているクラス交流とか討  
論会をもつと開発してもらいた  
い。生徒だけでなく相當な経験  
の持ち主である先生方にも関与  
してもらいたいと思ふんです。  
全体として、まとまつて大きな  
力となる行動企画が出来ないか  
なあと思ふんですが。

○ ○ ○ ○ ○

大角―学校が予備校化しているかどう  
かということに関しては、それ  
ほどではないという意見が多い  
ようです。しかし大手前におい  
ては、現在の教育に皆が不満を  
持つていふという事は確実だと  
思ひます。やはりどこか欠ける  
物があるのではないでしようか。  
その欠けているものを前面にう

ち出していく事は明日の社会に

生きていく者の教育の場として  
は必要なのではないでしようか。  
それに関して意見を述べて下さ  
い。

大角―小学校の時週一時間、会議の時  
間があつて、その時はなんでこ  
んな時間があるねんやろうな、  
と思つていたんですが、今高校  
へ来るとそんな時間が全然ない  
んです。結局、勉強大学入試の  
方にまわつていふと思ひます。  
僕としては、大学入試はひとつ  
のものとしてあるものであつて  
教育とは別のものだと思ひます。  
学校はもつと本當の入間の教育  
の場であつてほしい。だから週  
一回のそんな会議の時間があつ  
てもよいのではないでしようか。

○ ○ ○ ○ ○

校長―そのために週一回のL・HRが  
あるんですが……  
大角―L・HRはあるけれども、つら  
つらと流れてしまふ。討論会を

やつたら、皆が一杯悩みや意見  
をもつていふんだなあとという事  
がわかりました。L・HRはあ  
つても全然力がないような感じ  
がします。

校長―それにはやり方があると思ふ。

五十人皆が皆自由に発言できる  
討論の仕方はないことはないと思  
ふ。そこは皆で考えなければ  
ならないと思ふ。

川原―僕は八組の会長をしています、  
先生とのつながりが全くと言つ  
ていいほどなくて、先生がHR  
の時に話す事と言えは入試に関  
することだけで、あとは全部先  
生の方針として僕達に任されて  
います。しかし今、ふりかえつ  
てみれば分り分り分り分り分り  
と思つていふ事をした

岩脇―今、H・Rで一番問題になつて  
いるのは、討論会をやつてほし  
いという事ですか？ 実際には  
誰も討論会など要求してない。  
皆が望んでいるのは唯楽しく遊

校長―今の問題なんか悪じゆんがんに

なつていふのではないか。  
先生自身もみんなが逃げていく  
ような気がしておられるのでは  
ないか。相互信頼がちよつと欠  
けていふのではないか。

○ ○ ○ ○ ○

会長―二つ目の問題点、L・HRの間  
題はこれからの教育に大事な位  
置を占めると思ひます。

現実には予備校化して行く傾向が  
あるし、又そういう現実を僕達  
学生が否定する事ができない。  
H・Rが對抗するような形でも  
つと時間でも増やされた方がよ  
い。

鍵本―確かにもう少し時間があつて欲

しいですね。

岩脇―今、H・Rで一番問題になつて  
いるのは、討論会をやつてほし  
いという事ですか？ 実際には  
誰も討論会など要求してない。  
皆が望んでいるのは唯楽しく遊

ぶ事だけだ。それで何を感ずる

かといつたら、人間と人間との  
関係では誰でも他人に絶対に見  
せないという面を持つていふの  
ではないか。だから僕らが学校  
内で他人と完全にうちとけ合ふ  
という事は絶対に不可能だと思  
ふ。

校長―学校という社会においては、ま  
だそういう事を解決する方法は  
あると思ふんですが。

岩脇―僕もそういう所に希望を求めて  
自治会に参加して見ます。  
自治会の活動でも生徒間の利害  
一致という大きなものがあつた  
ら皆それに飛びつくと思ふ。

○ ○ ○ ○ ○

校長―山があるから登るといふ言葉が  
あるけれども、勉強の面でもそ  
んな態度があるいは望ましいの  
かも知れない。  
岩脇―望ましいと言ふけれども、そん  
な形が取られていないから問題

になるのではないか。

校長―確かにそうだけれども、こうい  
うややこしい時代ではそのよう  
に考えるのが一番良いのではな  
いか。出世しようとして学問し  
ても出世できるわけではない。

岩脇―そりやそうだが、実社会に出る  
事を考えたたら、今の経済機構の  
中でそれは意味のない事だ。

校長―君の言分はわかるけれども、そ  
ういふ事を考えるのだつたら、  
学問があるのだからやるのだと  
考えた方が、或る救いとなるの  
ではないか。

河野―いがあるからさだという考えは  
危険ではないか。

岩脇―それにマイナスの救いではない  
か。

校長―マイナスというよりもつと高尙  
なものかも知れないよ。

会長―今、言われたように、勉強は何  
の為にするのか、教育の理想と  
は、といったものをもつともつ

と深めていつたらいのではないな

いでしようか。高校だつたらそ  
れを押し進めて行つて、そんな  
事は現実では不可能だけれど、

そのジレンマに苦しむというの  
は本当の姿だと思えます。勉強  
のために勉強するという人が笑  
われて本当の打算で大学に入り、  
大学に入つて何をするのかと尋  
ねたら就職するといふ。就職し  
て何をするのかと聞かれたら、  
解らんと答える人が一番巾をき  
かせている。そんな人達は何の  
矛盾も感じていないんです。現  
実に合わなくてもいいから、も  
つと高い所にあつてもよいと思  
うんです。

校長―まあ、そうあつたら結構だが。  
こういう事を考えたのはギリシ  
ヤ人位なのだろうか。

岩脇―会長は、目的を持った教育とい  
うが、教育とは人間を作るもの  
になつてゐる。

河野―人間を變形させるものだ。

校長―それは形成していくものである  
べきだ。まあ、できてゐるかと  
うかといふ事は別にして。

岩脇―僕はできてゐると思ふんですが。  
僕の考えでは個性をのぼす事も  
形成に入るんですが。

校長―それが問題なんだと思ふ。いら  
ない芽はつまなければならぬ。  
あるひとつのものを育てるには、  
たとえば、植木だつたら選ばな  
ければならないのだ。教育とい  
うのも当然そうあるべきだ。

岩脇―人間形成というのは、ひとつの  
形にはめこむといふ事になるの  
ではないか。ところが僕は自分  
自身つくられたものに対して  
嫌悪感を抱いたらいつたいどう  
なるのか。人間が人間をつくる  
といふ事は、人間が人間をさば  
くのと同じような意味になると  
思ふ。

校長―人間が人間をつくるといつても

ひとり人間がつくるのではな  
い。

鍵本―僕が思うには、型にはめるとい  
う時代はもうすぎて、自分自身

を生み出すという段階に今の教  
育が入つてゐる。それをもつと  
徹底していつてほしい。

校長―我々自身が君達の望んでゐるよ

うな教育をするには、まず、我  
々がその能力を十分に備えてい  
るかどうかに研究と努力を  
必要とするようだ。

会長―いろいろ話して脱線ばかりした  
んですが、それにもつといふん  
な事について話し合いたかつた  
んですが、この辺で一応、この

司 会―会長

座談会を終わりたいと思ひます  
お互いがいろんな意味において  
頑張つてもらふようにしたらいい  
と思ひます。

出席者―校長先生、宮崎先生、鍵本、  
小西、川原、大角、大前、河

野、岩脇、中道、赤司、田中

## 高校予備校化に思う

二年 安 田 明 美

高校予備校化、これははずんだ社会のいくつかの壁の一  
つである。

我々終戦直後二、三年のベビーブームに生まれた子供達  
の大学進学期となり、その競争率はげしきは極まる。ま  
さに大学入試残酷時代といふべきである。

正月を越せば幼稚園から大学までの試験勉強もいよいよ  
追い込みとなり、年々進学者の辛さがさげばれ、高校一年  
生である自分にも容易に大学進学の苦しみが想像できるの  
である。たいていの親は子供を一流大学へ入れたいと思ひ、

又本人も入りたいと思ふ。それは実社会において「大学出  
」という肩書きが一つの人格を意味することく導かれてい  
るからではないだろうか。学歴といふものが社会に出て、

職業、収入、出世に關係のないものと言えようか。大学  
卒の人々が社会のメインストリートを歩む可能性は非常に  
大きい。それ故小さいころから良い大学へと必死にならな  
ければならない日本の社会がここに現われてきたのである。  
大学教育人口がふえた近ごろはその入学難が増々激化され、  
浪人も多く生まれ、昨日今日の大学教育費の値上げも又、

シヨツクなエニースなのである。

この問題の裏には、社会という大きな背景が問題解決を困難にする。これらの情勢の中にある我々の高校も又、一流高校であるが為に大学進学の前備的存在化しつつある。我々にとつて本来の高校教育の目標は大学への道一つではない。学校教育に我々の若さが求めているものは無限にある。しかし、現実には学生としての能力を最大限に生かし、将来に伸びる培いの為に学び、青春を横臥している余裕はないのではなからうか。高校生活のこの大きな組織の中で個々の才能、人間性を伸ばして行くその点においては今の

高校のあり方は難しい。勉強一途に追いまくられるものの中には何か大切なものが欠けている。

学校教育の中では社会での人間関係において情操豊かな人間性を尊ぶことを二の次にしてしまつていいものであるか。けれどそう言つて誰しもが発奮するのであるが、時代擦れしてしまつた我々は批判はしても容易に変えがたいその流れに押され素直に我が軌道へと歩んで行く。現実には高校生活は大切なふみはずしてはならない人生の一つの階段なのである。

## 高校は予備校化していない!!

三年 入 江 純 一

「高校の予備校化」が最近社会で問題にされ、それについて教師や生徒、はては現在の高校というものに全く理解のない一般の人々までが賛否両論を述べ合つてゐる。しかし賛否両論とは言うものの私の経験した範囲内では、これに「賛成」あるいは「賛成」とまではいかなくても「当然」「だとか、「満足している」という考えを持つてゐる人に出つたり又は、そういったたぐいの内容をもつた記事を新

聞、テレビ、あるいはラジオで見聞きした数は非常に少ない。現在はずきり記憶に残つてゐるものはわずかに二つにすぎない。そこで私はその数少ない者の一人として、又、高校生として「高校は決して予備校化してはならない」  
『高校の予備校化』等というのはかつてに社会、特にその中で重要な位置をしめるマスコミユニオンが作り出したはなはだ無責任な言葉である」と叫びたいのである。

確かに現在の高校においても大学入試だけに力を入れてゐるし、又、その為には教科書以外に、副読本、問題集が次から次へと与えられ、いわゆる「つめこみ教育」が行なわれているのは否定できない事実である。

しかしこの「つめこみ教育」に反感をもつ前に、今一度私達の立場を考えてみたい。私達は人間である。学生である。人間である以上は苦しみが伴い、学生である以上はテストが伴う。そしてその両者が併合されたのが大学入試であり、「人生には数多くの節がある」の言葉通り学生における最大の節がそれなのである。

よつて人生に一つの区切りをつける為にも人間であるという自意識をもつ為にも大学入試は必然であり、従つてそれに伴う競争↓つめこみ教育も又、必然なのである。そしてこの「競争↓つめこみ教育」についてゆけないのなら、ついでに行こうとする人達の心を動揺させるような言動はつしむべきであり、又、進学を目標にしなければよいではないか。(もちろんそのような人達にはその資格がないのは言うまでもないが)。それが学生の守るべき数多い規律、あるいは道徳とも言うべきものの一つではないのだろうか。まして進学を希望しながら、それを叫ぶ者はもつての他である。すなわち自分に与えられた自己確立(単に出世をさすのではない)のチャンスを目を自ら放棄してゐる事に気がつかないのである。

「人生は競争である」といふ生感であるが、これと同じような考えをもつてゐる人は少なくないと思う。要するに人間はいかなる競争においても勝たねばならないのである。そして勝つ為に努力せねばならない。一たとえそれがつめこみ教育であつても一こんな事は今さら取り出して言うべき事でもないのであるが、

「高校の予備校化」を叫ぶ人達には最も欠けてゐる知識なのではないだろうか。高校は予備校ではないし、予備校化もしていない証拠として、クラブや友達関係が進学競争のはなはだ激しいこの大手前においても今なお昔と何の変り事なく続いてゐるといふ事をあげても決して見当ちがいはないと思う。しかしいかに親友でもテストの時には一人の敵として見ていることも今も昔も変つていないが、この事も又、昔の高校が予備校でなかつたと同様、現在の高校も又、それでない立派な証拠である。

自分の歩いて来た道の前に川があるからと言つて、自分より前の人達がそれを泳いで渡つたにもかかわらず、あるいはない橋や船を探したり、あるいは「こんな所に川があるのはけしからん」等とわめく人は現実を見つめることのできない人生の落伍者である。

私は何も「つめこみ教育」を廃して、心のかよつた教育を望んでゐるであろう多くの学生に目をいからして、「君達は「つめこみ教育」に満足せねばならない。」とか、「

「高校の予備校化」を叫ぶな」とか言つて、「一般的な思想にことごとく反対する」という、十代の私達に起りがちな反抗心を満足させようとしているのではない。「高校の予備校化」と軽々しく口にすると現代社会の風潮とも言うべきいわゆる「無責任な売り込み文句」に心を動かされることなく、私達は「高校生、すなわち学生なのだ」とい

## 高校生活と自分

二年 浅井 信 義

二学期の中頃からだつたと思うが、「五組は成績が悪い」という声がよく聞かれるようになった。今度のアチーブでも明きらかだ。残念だがそれは認めねばならない。だが僕のクラスは学年中で一番よいクラスではないかと思う。ある先生は「居心地のよいホームルームは最も悪い。ホームルームは居心地の悪いものだ。そうである方がよい。」そういろいろなことを言われた。つまり、ホームルームはなごやかであつたり、チームワークがよかつたりして、楽しいのはだめだというのだろうか。僕はその意見には反対する。勉強するには確かに先生の言われるようなホーム

ル意識をはつきりもつた上で、その善悪を判断して欲しいのである。友達もある。クラブもある。趣味もある。これが果して予備校なのであるか。「否」高校である。そう、高校なのである。

ルームがよいのかもしれない。しかし、それでは余りにも高校生活が空虚なものになるのではないだろうか。「大勢に押し流されるな」この言葉がふと思ひ出された。これは入学式の日その時の会長の森本君が、新入生の僕達に向かつて何ども念を押すように言われた言葉だ。今となつてこの言葉の意味が大部理解できるような気がする。この言葉は今の僕達、これからの私達、そして卒業してゆく人にも重要な意味を持つものではないだろうか。

去年の四月この学校に僕は入学した。それから一学期間は何も考えずに勉強したように思われる。学校の生活に慣れるのに僕はかなりの時間を要した。その時の苦しかつたことは今になつても思いだされる。「このままの状態が三年間もつづけば、あまり丈夫でない僕の体もたないだろう。」そんなことを思つて実に不安だつた。又、その時の空虚な気持ちなんとも言えない泣きたいような気持ちだつた。今は今では笑話であり、思い出となつてしまつた。しかし、それを吸収するのはホームルームではないだろうか。「ゆとり」のあるホームルームを私達は作るべきだと思ふ。休み時間もおしんで勉強する。たまにはそれも必要かもしれない。しかし、そういうことがあまりにも多すぎないだろうか。こんな状態では居心地のよいホームルームは作れないだろう。

もともと丈夫でなかつた自分、その上学校に慣れない間の疲労のためか、内臓のあちこちが故障したのには僕もまいつてしまつた。しかし、その間に、僕は今まで発見出来なかつた自分、その自分を見出すことができた。今まで接触したことのない新しい思想、それをもつた友人や、他のすばらしい友人も出来た。互いに自分の意見を主張して議論したりした。それが唯一の僕の心の糧であつたことは言うまでもない。だがいくら勉強ができてても体をこわしては何にもならない。これは僕自身が体を悪くして体験したことである。又、これは誰もが思い、認めていることである。しかし、自分では気の付かないことが多い。これと同様のことが私達の周囲には多くある。例を上げると、自治会の問題が上げられる。今の僕には自治会は月と同じように思われる。つまり、近い様ではるかかなたにあるのだ。しかし、月へ行こうと人類が努力するように、私達も自治会を近づけ、又それに近づくべく努力しなければならぬ。

それではこれからどうすればいいのだろうか。大昔、人々が狩猟によつて生活していた時は、あまり文化は進歩しなかつた。だが穀物を作り、農業を営むようになり、生活にゆとりができた。そこで文化は急速に進歩したのだ。このように自治会や僕達に欠けているもの、それは「ゆとり」ではないのか。その「ゆとり」が何だか、それはみなさん個人によつても異なると思う。しかし、それを作り私達が

去年の六月頃父が病気で倒れ、十月頃まで寝ていた。一時はかなり危なかつた。今自分のしなければならぬのは何か、将来は？ 様々な考えが頭に浮かんで来た。ずいぶん悩んだことであつた。その時程自分の生き方を考えたことはなかつた。自分がなさけなく思われてしかたがなかつた。勉強しろと先生が言うからして来た。何のためにするのか、自分のためだ。そう自分自身言いきかせて来た自分がなさけなかつた。そこには本当の自分はいないように思へた。その時「大勢に押し流されるな」という言葉の意味が少し分つたような気がした。

今の私達には何が一番大切なのか。やはり勉強だと思ふ。ある先生の言われたように勉強より大切なものはないだろう。なぜかと言われれば、学生だからという以外に今の僕には答えられない。だからといって勉強さえすればよいのではない。そんな空虚な生活を送るのが本当の学生生活ではない。私達には青春の夢も希望も必要なのだ。そういう「ゆとり」は絶対に必要なものだ。クラブに入るのも、

一つはそのためではないだろうか。最近、僕の友人で実にくらぶ活動に熱心だった者がどうしたわけかクラブをやめた。その時の彼の様子は骨のない人間のような感じだ。彼にはクラブ以外には精神的な糧がないのだ。大阪城の芝生に寝ころんで詩を作ることも私達には必要なのだ。中学校から高校へ入る時、どこか大学へいきたいと真剣に思つたものだ。しかし、今では自分にあつた大学、学部に行きたいと思つている。僕は自分のできるだけの勉強をするつもりだ。しかし、ゆとりはあくまでも忘れたくない。そして有意義な高校生活を送りたい。つまらないことだつたかもしれないが、現在の僕の考えを述べさせてもらつた。

## 先生方に一言

三年 西 口 賢 二

一昨日、担任の先生からリーダーの試験範囲が発表された。教科書にワークブック、副読本に問題集等。「またか」と私は思った。或る友達も「あーあ、後二週間しか残つていないんだな。」と呟いていた。私が「またか」と思つた気持と彼の呟きは一体何を意味するのであろうか。

彼と私の気持には明らかに諦めに似た気持があつた。ま

た辛い思いをしなければならぬ。そう思わずに居れなかつた。試験が近づいたことが私を恐れさせたのである。彼も恐らく同様であつたろう。試験というものが何故こうも我々に不快感を与えるのであろうか。勉強することが目的で進学したにも拘らず何故こうなのであるか。それは元來人間というもの何らかの手段で他人との關係に於いて価値判断をされることを嫌うからであると言つて了えばこの問題を考えるに當つて余りに浅薄である。確かにそれもあるが、現在の我々にはもつと深い意味が隠されていると思

我が大手前生で勉強を真に好まぬ者は、少ないであろう。大手前生となつた以上は学業を志している筈である。それが当然なのである。しかるに現実では、殆んど者が、機会さえあれば勉強から離れて行こうとする。そして外面的には、勉強は嫌いだと言う。これは本心ではない。こう言いつつも罪悪感に似たある種の感情が残るであろう。学生としての義務感から解放され得ぬのである。分つていつつも敢えて学業から離れようとするこの行動的矛盾は、一体何を意味するのであろうか。これは多分に現在の教育の在り方の問題につながると思う。

でなかつたが、これは全部の者が学業を志していることを示す。しかるに行動的矛盾を犯すのは（私なりの断定で言え）外的強制力を感じるからである。余りに外から強いられて自分の本当の在るべき姿が見出せないのである。見出そうとしても外部からの強制によつて邪魔されると、当然そこにはうづ積したものが溜ることになる。それが、精神的に穏やかな時期ならまだしも、精神的に不安定な時期にあるだけに、その程度も甚しいのである。

我々は非常に知識欲に燃えており、今まで外から眺めていたものを自分の掌中に入れたいと思ひ、他人に任せていたものを自分の目で確かめたいと思ふ。そこで人によつては文学へ、或いは哲学、宗教へ、更には芸術へと志向するようになる。そして、自分の在るべき姿を見出し、或いは見出そうとするのである。ところが現実の問題として我々には学業がある。学生の当然の義務としてこれを履行せねばならない。

高 校 生 活 に 想 う  
我々はそのことを知つている。しかし学業が余り厳し過ぎると我々は強制意識を覚え顔を背けたくなる。特に、学業の傍、自分の志向する方面に専心したいと思つている時に、多くのものを課せられることは耐え難いことである。そういうところから生徒の種々の在り方が決つてくる。或る者は、自分の志向しようとする道を敢えて断ち学業だけに専心し（この種の者はごく少いであろう）また或る者は、

自分の志向する道の重大さを感じるが故に、よくないと感じつつも学業を疎かにする。前者は学生として正しいとされ後者は悪いとされる。しかし、一概に両者の良し悪しを決められぬのではなからうか。成程前者は、学生としての在るべき姿として正しいとされようが、大切なことを犠牲にするというのではどうかと思へるし、又後者にしたところで悪いとされても、彼自身に関しては、そう悪いともできない。何故なら後者は、自覚しているからである。彼は学業の義務を感じて居るが故に、強制されることに耐えられないのである。強制意識を感じれば感ずる程、学業を疑い、学業が疎かになるのである。これでは、眞の教育の意味を為さず、彼とするより現在の教育の在り方を悪いとすべきである。それではどうすべきか、我々には分らない。この問題は余りに大きい。現実の堅い殻を感じさせる。そうして消極的にならざるを得なく、行動的矛盾に追いやられて了うのである。我々はいくつ時全く無力である。独自性を持たず、外的作用に揺り動かされ、抵抗することができない。自分の行動的矛盾を胸中に秘めつつ、外部に従うのである。敢えて、抵抗するならば、それは、この現実での否定を意味せざるを得ない。すべて不利なものばかり……。

我々は毎日、うづ積したものを秘めながらその日を過す。思い思ひの事を考えつつ、外面的に単調な日々を送つてい

る。如何な日、この状態を脱け切る事ができるであろうか？



# 『学生々活に思う』

この二年間に得た事

三年 中 道 康 夫

学生生活に必要なことは、いやもしかすると人間生活全般に必要なことはただ人間性の抹殺である。全ての人間性を抹殺することである。泣く、笑う、喜ぶ、悲しむ、恋、友情、愛、それから悩み、全てを自分の心の中で闇から闇へほうむりさることである。それができない人間に学生時代に於ける幸福はつかめるはずがない。それでもつかめると称する者は、時代遅れの自己妄想である。もしくはやせがまん幸福である。全く人間性というもののほどやつかいな邪魔者はない。こんなものに何かあることに左右されていたら、たまつたものではない。特に友情なんてのは面倒である。友情がないと生きられないと思ひ込むからである。実際は少しも不自由しないのに、悲しそうな顔さえすれば同情なんてすぐ集まるし、みんな同情したくてウズウズしているんだから、人の前でいつも笑つていたり好意なんてのもすぐに集まる。いつだつて手に入るものの為に、幸福を妨げるようであつてはいけない。もう一つ、良心など絶対に持たぬことである。何といつてもこれが最も重い荷物

だからである。そこいらにいくらでもそんな犠牲者が死んでいる。戦争においてはできるだけ身軽な者が生きのびる。背中に重い荷物をしよつていて長生きはできない。明白なことである。学生時代は戦争である。それも人生で最も激しい時期である。長い長い長距離走の最もつらい所である。みんなが走っている時は、とにかく、何が何でも共に走ることだ。もしも一人走らなかつたら、考えてもみたまえ、人が息をきつて道を走っている時に、何とか人を抜こうとして必死になつている時に、道端の芝生の上で、そんなことには全く無関心なように寝つころがつている人間がいたとしたら、そして時にその人間が何とも言えぬ目つきで、アクセクしている自分達をながめたとしたら、またそして、自分達もややその長距離走に馬鹿らしさを感じていたとしたら、腹の内がにえくりかえるだろう。当然である。人間、自分の一生懸命やつていることに、他人から、たとえ一人でも、無関心を示されることほど、「恐ろしい」ことはない。しかもなお、自分は走りつづけなければならぬのなら、

殺に残る道はただ、闘志を燃らせ、そして目ざわりなその人間を罵倒することであり、その存在を無視することである。だから、人が走っている時は共に走ることであり、人が戦かっている時は自分もまた戦闘に参加することであり。共に走つて遅れたならば同情さえするだろう。しかし芝生に寝つころがつていたら、ただ憎悪されるだけだろう。憎悪されることは非常に幸福にとつて妨げとなる。そんなことはさけるにこしたことはない。その上、走ることは、そのまま幸福に一步近づくことになる。一石二鳥という具合にいくのである。

高校生活に思う

人間性の抹殺とは機械になることである。学生生活においては、鉛筆を持ち、憶え、それをそのまま紙に書き写す機械になればいい。それ以外のものは不要である。学生生活にそれ以外のものを必要とするものなどあるはずがないし、あつたとしても幸福にとつて妨げとなるばかりである。学生生活において考えるということはほとんどいらぬ。ただ一ついる時は、まわりのものを全て幸福にとつて妨げとなるかどうかを判断する時だけである。妨げとなるものは全て悪いものである。即ち捨てることである。恋をしながら単語は憶えられぬ。即ち恋は悪いものである。悩みながら数学は解けぬ。即ち悩むことは禁物である。友情は、問題が解けない時たずねられる。即ちこの時だけ友情はよい

ものである。友人は、本業を断るには重宝だ。即ちこの時だけ友人はよいものである。こんな調子で判断していけばよい。そうすればきつと後には少数の素晴らしい友人と参考書が残るだろう。何が何でも機械になることである。何事にも無関心になることである。人間性や良心や友情や、考えることなどは少数の人生の落伍者にまかせておけばよい。馬鹿のように喜んでひきうけてくれるだろう。そうすれば、何もかもうまくいく。自分達は幸福になるし、彼らはまた、幸福なんだと信じ込んでいる。

機械になるのがいやなら、必然的に落伍者になることである。それもいやだというならあととはただ死ぬことである。私もまた、機械になりきれない人間である。もつとも、こんな馬鹿なことを考える機械にはなつていないのかもしれない。

「エリーテ」という言葉がある。「えらばれた者」という意味である。我々の年代において知能程度のみを、その尺度として見るなら、さしずめ大手前生は、そのエリーテということになるのだろうか。各中学から大手前へ入ってきた各々の分子は「エリーテ意識」悪く言えば「うぬぼれ」のような気持を心の奥に持っているのである。それが入学後、数ヶ月後には悪い形で表われてくる場合がある。ある者は、教師の強要から、勉強、勉強に追われる日々を送ることになり、憧れていた高校生活を見い出せなくって落胆する。それに、名うての秀才連の中で、中学当時のような成績は取れない。そこで成績不振から生じる自己不信に陥こむ。このような状態が、彼から、今までのエリーテ意識を奪い取り、代りに自己嫌悪や自信喪失の念を、彼の上に植えつけることに成ってしまうのである。彼の持ついたエリーテ意識が大きければ大きいほど自己不信も大きい。さて、自分の大手前生活の思う時、この潜在的エリーテ意識が、僕に、どう作用しているか。……

自分は単純な毎日の生活の中で、或る焦燥感に襲われることがある。これは決して「マンネリ」からくるものではなくて自分では「心理的精神的スランプ」と勝手に呼んでいる。これが数ヶ月の周期をもつて僕を訪れるのである。予備校化された生活の中で、次の様なことを感じることがある。「果して現在のような状態が真の高校生活なのだろうか。昔の学生はもつと人格形成に努めたり、思想の追究をしたものなのに、我々は、ただ大学入試の為に毎日を過しているのは実につまらない。人間形成こそ高校教育の目的ではないのか。」……

こうなると、他人が、ガツガツと勉強しているのを見ても「貴様等は勉強ばかりやつていて実につまらん。俺だけは貴様等とは違うんだ。もつと人間的な思想的な何かを掴むんだ。もつと有意義な生活を送るんだ。」という気になり片つ端から色々な本を読みあさる。科学書、倫理書から小説、エッセイに致るまで。……このような行動も自分の心の奥の自尊心の為せる技で「自分だけは違うんだ

。」という心の表れに他ならない。勉強やその他の面で他人に劣っているのを何とか自意識のうちでカバーしようとするのが為の一種の代償機制に他ならないのである。他人を軽蔑的な目で見ることによつて一種の自己満足を与えているのである。しかし、この読書や冥想への没頭も、すぐに断念せざるを得なくなる。テストの接近、教師に「勉強せよ

。」と注意されること、最も大きいのは、自分の成績学力の低下に気付いて、もとの勉強中心の生活が恋しくなるからである。ここに至つては自分の弱さ、人間の小ささが、つくづく情なく思われる。かくして自分は再び教科書と試験の待つ世界へ戻るのである。今にも消えそうなエリーテ意識を心の奥にしまつて。……

## 集団とエリーテ

三年 仲井 徹

学校からスキートに行つた時の事である。友人が、たまたまゲレンデで知り合つた東京の学生らしい人達と話をしている、僕達の学校を問われた。友は名門校を發揮するのはこの時とばかりに、「大阪府立大手前高等学校」と答えた。そうである。が、その学生曰く、「大手前？ あまり聞かんなア、でも府立で言うんだから、まんざらバカが揃つて

大阪を五つの学区に分け、その第二学区のトップクラスの生徒が集まる名門校と世間の人は大手前を称す。上級学校への進学率が、優秀な学校だと人々は言う。あの桐のバツチに大なり小なり誇りに似たものを、もつた経験は、この学校にいる殆んどの人のあるところだろう。「エリーテ意識」 ころ呼ぶにふさわしいような気持が……しかし、それが本当の意味でエリーテ意識なのだろうか。それは僕達が高校生活を送るのにプラスになるものだろうか。

A村という、瀬戸内の一寒村は、長生き村として、全国にその名を知られている。ある中年の紳士が二人、偶然、一緒に食事をする機会を持った時、B氏が、自分はA村の出であると言うと、相手のC氏が、『どうりで、あなたもお年の割に若く、健康そうに見える。』とさらに酒をすすめたという。ところが実はそのB氏は、ながらく患つていた、胃腸疾患の状態から少し回復して、久方振りに医師から酒を許可されたばかりであった。という笑い話がある雑誌に載っていた。―場合は異なるが、どこか僕達の生活と一派通じるものが感じられないだろうか。C氏は常識人として、A村の名前を知っており、それが、『健康。』、『長寿。』という事がらと、固く頭の中で結びついていたために、その出身であるB氏をたちまち健康であり、やはり長寿だと判断を下してしまつた。―いわゆる潜在意識として！

果してB氏は、C氏の判断通り健康な人だつたのだろうか。ここに大きな落とし穴がある。……健康という比較的、自覚しやすい事がらならまだしも、これが能力とか手腕とか、いう問題だと、事はさらに複雑になつてくる。世の人から『いい学校へ行つておられますね。』などと言われ、あるいは、先輩の素晴らしい、進捗状況をつきつけられて、自分も同じ学び舎に在り、同じ机や椅子で勉強し、彼らと同じように試験されて、入学したのだと思つて中には、自分達は大手前生だ。自分達は選ばれてゐるのだ。同じような先生方につける限り、先輩と同じように……。そう考へてしまふ人もあらわれるかも知れない。一つの集団があり、その集団を、美化し、価値観を与え、自分がその集団の中にあるというだけ、その事実だけで、自分についてさえも価値観を与える人も現れてくるかも知れない。いや、そういう人ではなくて、私達一人一人の心のどこかにそういう感情がかくれてはいないだろうか。理性では軽蔑しながらも……。悪い成績をとつた時に『大手前だから―でも良いではないか。』という弁解がなされるような事があつたら……。ここにも先程と同じような落とし穴が待ち構えている。ある集団が、俊才の集団であつたとしても、自分がその中にいる事は必ずしも自分が俊才である事を意味してくれない。先輩の残した業績があるにしても、それは、そのまま、先輩の業績に移りはないのである。ある場所で勉強した人が立派な人になつた。自分もその場所で同様に勉強したからと言つて同様の結果が生まれてくるとは限らないのは、子供の頃から聞かされてきた、話の中に多くの例を見る事ができる。

健康という比較的、自覚しやすい事がらならまだしも、これが能力とか手腕とか、いう問題だと、事はさらに複雑になつてくる。世の人から『いい学校へ行つておられますね。』などと言われ、あるいは、先輩の素晴らしい、進捗状況をつきつけられて、自分も同じ学び舎に在り、同じ机や椅子で勉強し、彼らと同じように試験されて、入学したのだと思つて中には、自分達は大手前生だ。自分達は選ばれてゐるのだ。同じような先生方につける限り、先輩と同じように……。そう考へてしまふ人もあらわれるかも知れない。一つの集団があり、その集団を、美化し、価値観を与え、自分がその集団の中にあるというだけ、その事実だけで、自分についてさえも価値観を与える人も現れてくるかも知れない。いや、そういう人ではなくて、私達一人一人の心のどこかにそういう感情がかくれてはいないだろうか。理性では軽蔑しながらも……。悪い成績をとつた時に『大手前だから―でも良いではないか。』という弁解がなされるような事があつたら……。ここにも先程と同じような落とし穴が待ち構えている。ある集団が、俊才の集団であつたとしても、自分がその中にいる事は必ずしも自分が俊才である事を意味してくれない。先輩の残した業績があるにしても、それは、そのまま、先輩の業績に移りはないのである。ある場所で勉強した人が立派な人になつた。自分もその場所で同様に勉強したからと言つて同様の結果が生まれてくるとは限らないのは、子供の頃から聞かされてきた、話の中に多くの例を見る事ができる。

エリートは、少なくとも僕達の高校生活にプラスとなるべきエリートは、良い集団に属する事よりも、むしろ、その集団にふさわしい行動をし努力をする事にあるのではないだろうか。我々が真の意味でのエリート意識として持つていいのは、大手前生である事ではなく、勉強する(教科

書だけに限らず、クラスなどいろいろな面で)高校生であるという事である。

## 目隠しをつけた馬

三年 西 橋 健

灰色の……予備校化する……等と呼ばれている我々の高校生活。なる程一般的に見た我々の受験を控えた高校生活は明るいというよりも暗い、苦痛を併うものであり、又ある見地からは無意とも言えるものだ。

える事は、なる程人間形成のある面ではプラスになる。しかし、その弊害は恐ろしく大きなものだ。『高校生活は改善される必要なし。現在の入試制度の下で苦勞をしてその難関を突破する者こそ立派な人間となる。』

入学試験―その関門を通過する為に人間としての考え方、人格が形成されつつあるこの時期に、学問とは言い難い学習―高校の授業も我々のそれを学ぶ態度によつてある程度までは確かに学問ではあるが、受験勉強のあの一点でもテストの点数を上げようと努力する学習がどうして学問と言えよう。又あくまで学問としてそれを扱い続けるなら、より高等な学問をしようと、大学の入試を受ける時、結果的にはまずい。勉強方法かという理由で入学が認められる可能性は少なくなる。―この「矛盾をはらんだ学問」を我々は半ば強いられる。

この矛盾を承知した上での学問をするという、苦痛に耐

るが、すぐに解決されるには、問題が複雑すぎる。この渦中にあつて我々は単にもがいてはいけない。又単に身をまかせきつてしまつていてもいけない。いつの世にも存在するペシミスト達を除いて(我々の時期に真のそれは存在し

ないが)我々は現在のこの苦痛を実感として感じておくべきだ。競争馬の如く、むちの痛みを感じながら関門を通過すべく一心に走るのだ。しかし自分の意志をもつて走るのだ。手綱は自分達が支配する。決して目隠しをつけて走ってはならない。手綱をとる以上我々は社会へ出た後、自分の進むべき道を必ず今心に彫り刻んでおかなければならない。漠然としたものであつてもよい。しかし、個人個人が確固たる理想というものを持ち、それを基にして考えねばならない。個人の職業における適性の問題は、第二の問題である。又自分自身の能力への挑戦や、個人の利己的な金銭欲や虚栄心が基となつたものであつては決してならないのだ。極あたりまえの事である。しかしこれを我々のどれだけが真に自分の考えとして持つているだろうか。

もしも我々が自分自身を、あるいは自分が含まれる社会を見つめる目を覆う。目隠しをつけたまま走り出したなら我々の高校生活は全く無意味なものとなつてしまふのだ。又、社会にその目隠しをつけた馬が飛び出した時、彼らには感じられないかもしれないが恐るべき社会となる事は疑う余地もない。

「期待される人間像」が発表され、五年後には日米安保条約の改定を控えているこの社会で我々がこれから個人として、又社会の中の一員であるという自覚をもつて考え、活動すべき事は山積みされているはずだ。それから見れば

高校生活から大学入試への関門への道など何でもない問題であるかもしれないが、我々が目隠しをつけた馬となる時、それは恐るべき問題となるのだ。再び自分の自分なりの理想というものを確かめておく必要はないだろうか。

## 私は主張する

三年 大前 昊 之

明日を担う我ら、希望ありし若々しき我らだが、それにしては余りにも……

民主化された戦後教育。戦前の如く、何よりも教師が一番恐しいと言ふことも無くなつた。だがその民主化された教育が、中途半端な人間を(学業のみよしとする人間)作り出すのである。ベルトコンベアーの上に乘せられて大量に生産されている。大量生産により、人間は値段が安くなり、少しの歪みで素気なくばいとごみ箱に捨てられる。個性の無い安価な商品となつた。

私の言わんとする事

……我々はおつともつと教師と、又我々同志話し合うべきである。……

私が小学校の時、授業時間の中に、「会議の時間」と言ふのがあつた。毎週一時間、議題を定めて皆さんで話し合つた。私はその時なぜこんな時間があるんだらうかと不思議だつたが、だが今、我々にはその時間が必要であると痛切に感ずる。今我々に与えられている時間は、ロングホームルームという時間だけである。しかしそのロングホームルームの時間に討論し、皆さんが本当に話し合えるのは、年に一、二回であるのみ。

この間ホームルームの時間に討論があつた時、皆さんの疑問、悩みの多かつた事。私は始めてそれを知つた。勉強勉強に追われている彼らは彼らなりに考えていた。(私は勉強もせずだが)……そして結局自分の意見なりを言う機会がなかつたのだ。

私の言わんとする事

……我々はおつともつと教師と、又我々同志話し合うべきだ……

翻つて考えて見るに、青少年の非行、それも余りに知能ばかりの教育……偏よつた教育に欠陥があるからだと思ふ。話す相手も、話す教師も、そして教育の場―学校―がありながら話す機会も無く、爆発してしまふ。

……我々は彼らを、「意志の弱の為、そうなつたのだ。若は社会の敗北者」だと言えようか(勿論、これは反語です。)

新聞に、ラジオに、テレビに、非行がやかましくされ、偉いおつさんが、それについてさもないお話をなさるが、一つも解決は……

なぜ話し合う機会が与えられないのだから? 考えなくちやなるまい。それは今の社会……:学業、学歴のみを認める社会……:がその機会を与え無いのだ。そんな時間があるのなら、単語の一つでも、又数学の問題の一つでも解くのがよからう。そうすれば……(答えは明白である。)

そしてその社会の波に、学生が、果ては幼稚園の子供まで。そして「人間を作るべき教育」その最高機関の教育が社会の波に押し流されて……

でも我が大手前高校にも、少しく目の開いた学生がいて、その波に乗せられまいと反抗する者があつた。そして彼は話し合いの機会を作ろうと言ひだした。土曜日の放課後、我々の会議を開こうと提案した。だがその抵抗も社会の波に乗せられた大手前生には通じなかつた。出席者一人と言ふ無残な敗北であつた。やはり勉強の方が大切なのだつた。

教育……:我には別らぬ。全然別り得ぬ……:だが分らないなりに辞書を調べると、「教えて徳性を養ひ、知能を開き、感情を豊かにし、体を健康にさす」今の教育は、知能を開く教えのみであるだけではなはだ偏つている。「道徳、人間を作るのは生徒自身の自主制で作るのである」と言う言葉が民主化の教育だそうだが、これ

初めて話をした日  
そして鏡を真剣に見つめたのもその日

公園で黙って腰かけている時  
水たまりに顔を写している時  
そんな時の私はおかしいと皆は笑う

竹島節子

秋の日に

その日から無口になったのかもしれない  
その日から空をにらんで歩くようになったの  
かもしれない  
こんな私を皆はおかしいと笑う

何にも見えなくなつたら  
一筋の水滴が流れおちた

空が灰色で  
雲がまつ黒で

夕焼けが哀しいメロディになつて  
光と魚のたわむれが哀しい鏡となつて  
風とポプラの会話が泣き声になつて  
そして何でもなくなつてしまふ

後記

問題、問題、問題。我々の生活には確かになにか問題がある。しかしたれ一人としてその実体をつかみ、解決した者はいない。我々のある者は逃避を考え、ある者は闘の姿勢を示す。姿の見えぬ敵。思うのだけれど、すべてを解決するのは私たち自身ではなからうか。悩めばよい。苦しめばよい。その事自体解決の唯一の手段なのだ。

は逃げ口の様である。道徳、人間は、個人が作るものであると私は思う。だから個性があるのだ。だが、今の教育は放任しているのだ。教育は道徳、個人を作るべき生徒に対して教師が導びきを与えるのである。その為に、生徒間、生徒と教師との話し合いが、れつきとした授業として必要であると思う。英語は英語、数学は数学の授業のみ教え、それが終るときつきと引上げてしまふ。ほんのまれに人生についての話しがあるが……本当に微々たるものだ。  
私の言わんとする事  
今の教育には、戦前の道徳でなく、新しい道徳の時間が必要である。  
私は、今まで言ってきた様な意見がある友達に言つた。でも友達は顔色一つ変えず、すましてこう言つた。「初めからこの学校に来るな。すぐこの学校をやめろ」と。私は言い返す言葉も無かつた。これを読まれるであろう読者もそんな意見を持つているであろう。そして私に同じ事を言うかも知れない。私は返事、返答をできないであろう。私に言つた友達、又同じ意見を私に言うであろう読者は、今の社会にいれば、勤勉で、真面目で、偉い人物になるであろう。強いては、模範的人物であろう。だが長い目で見る時、新しく世が変わる時、彼らは模範的人物で、その時代の人々に認められるであろうか。(勿論反語です。)

我は思う。

今まで書いてきた事がすぐ実行されるとは思わない。実行されるのならもう以前に実行されていたであろうと。だが主張せねばならなかつたのである。  
教育は民主主義の社会に於て最も大切である。ゆえに偏よつてはならぬ、「真の人造り」である。偏つた世に流される事なく、真の教育をするべきである。偏よつた世に、それに合わせて行つた偏よつた教育は、その偏よつた社会に適している。だが幾世紀の後に、歴史として見るとき、その時「あの時代は何と……」と言われるであろう。我々は歴史を作る……真の社会の歴史……として作るのだ。だから今の教育を打破らねばならない。だが……私は余りに無力で消極的である。悪しからず。  
最後に私の言わんとする事、淡い希望  
今の我々は、生徒と生徒、教師と生徒と話し合うべき機会、授業、教育、新しい道徳の時間が必要である。  
我ら若人よ、社会に押流されることなかれ。

あの日から私は変つたのかもしれない  
あの日から私は馬鹿になつたのかもしれない

会長雑記 (前期)

石原達士

未成年者は見るな、聞くな、読むな、そしてものを言うな、この言葉が現在の大手前を支配しているといえは、少し言いすぎになるかもしれないが、今までに何回となく叫ばれてきた自治会の不活発や、全くバラバラな人間関係など例にとつても、決して適言ではないであろう。これらの問題のほとんどが「無関心」という言葉によつてのみ、片付けられてきたのであるが、ここで更にその原因を追及していくとともに、そうすることによつて、現在の学校生活をより充実したものに、そしてより活発なる自治会を形成するためにもう一度考察してみたいのである。

ところで現代は個人を無視した人間の疎外とか、企画、均一化された人間の要求されている時代だといわれているが、確かにこれが、人間不信感や連帯責任感の欠乏を助長し、我々一人一人を孤立化させていることは否めない事実である。そして現代の日本の教育たるや、資本主義社会にマツチする人間を養成すべく、組立てられてあるのだから、先ほど述べたような「無関心」はむしろ外部から強制的にそうならしめられているということが分るであらう。この大手前においても「形式主義者」ことなかれ主義者、とでも言うべき一部の教師や、受験勉強オンリーの学習など、これらの爛をくつて

いることは事実である。しかし、我々はこの「無関心」を社会に帰するだけでなく、自己自身に帰させる必要がある。

これを考える場合に最も排斥すべき点はいわゆる「小市民的」と呼ばれる幸福を求めるべきではないということである。なぜなら、それでは真の意味での自己の進歩、あるいは社会の発展などありえないからである。しかしこのような人間がこの大手前にも何と多くいることか。私は彼らをあえて利己主義者と呼ぶが、「自分さえよければ……」という態度こそ先ほどから述べている「無関心」を生み出すものなのである。又もう一ついえることは、実はこれは大手前の特殊なケースと思われるのだが、「エリートのかたまり」というような顔をして、自分に対してペールをかぶせてしまつて、決して赤裸な自分を現わさない者が大変多いということがある。そのために、ますます一人一人が孤立し、毎日の生活が空

虚な不充足感のみなごつたものと化してしまふのである。歌の文句じやないけれど、「あなたの友人を信じなさい」ともつとお互いに理解しあおうじやありませんか。

私は今まで、自治会活動低調の最大の原因たる「無関心」がどこから、どのようにして生ずるものなのであるかを述べてきた。しかし恐らく考慮すべき点が他にもたくさんあるだろう。が、これらはすべて我々一人一人が努力すれば解決できる問題なのである。我々はいくまでこの「無関心」と闘おう。

そこで今の大手前に目を向けて、具体的に「いかにすれば、我々の学校生活がより楽しく有意義なものになるか」ということについて考えていきたいと思う。それは言うまでもなく、自治会活動の活発化ということである。自治会なくしては、学校生活は成り立たない。そしてそのためには、現在のホームルームの基礎からの建て直しが必要なこと、私は何回となく述べてき

た。我々自治会員が一番接触の多いホームルームの充実化は、確かに難かしい問題には違いないが、我々は今こそ立ち上がるべきである。

大手前生よ、今こそ目覚める時である。今までは余りにも物ごとに対して逃避的ではなかつたか？ もう一度、真剣に考えてもらいたいものである。そして皆が自覚した時、自ら、より活発なる自治会が形成され、そうなればこの貴重な高校の三年間がより充実したものとなるのである。

私が今まで述べてきたことを分つていただけたであらうか。我々とはかく社会風潮に、いやその波に流されやすい。実際それが我々にとつては一番楽なのであるが、常に現実を見つめ、「はたしてこの状態がいいのだろうか」と考えてみる必要があるのではないかと思う。

そして、未成年者は見るな、聞くな、読むな、そしてものを言うな、こんな未成年者であつてはならないのだ。

常に進歩する、考える、そして行動する。こんな若者に我々はなるうではないか。

金一千円也

会員の方は御存じかな。我々が年間一千円の自治会費を払い、それが自治会の予算の大半を占め、それで本部予算を組み、クラブ予算を組み、文化祭を自治会祭を行なつてゐる事を。

だから予算審議の時、もつと大きな顔をして、各種行事の時にはその分を充分に取り返し、本部役員の金の使い方には目を光らし、漫画をでかでかど画いたプリントが配布されようものなら不信任とまではゆかなくても他人事ですべてをすますなどはチトおかしい。自主性の根源は金にありと思つたものだからつまらん事を一言。

半年の自治会活動で色々な事を感じまた考えた。ここでひとつ大きな論文でも書きたいところだがなかなか考えがまとまらない。全活動を終え傍観者の位置に立たねばまとまつた考え方をするのは困難なようだ。そこでこんなほんとうの雑文になつてしまつた。私の後を引き継ぐ人の何かの参考にもなるだろう。

文化祭

クラブに参加している人が少ないので全体としても積極的に参加する人が限られる。また少数の人の手になつた作品は内容が充実せず見ていておもしろくない。我々は全員の参加を狙つてクラス参加を考えた。今回は五クラス

の参加ではあつたが、各々相当に充実した内容を持つていた。これからはクラス中心に移つてゆくべきではないだろうか。(現に市岡高校では実施されており成果を上げています。)

文化祭の本質は文化系クラブの発表会だが、文化祭設立当時のクラブ観と現状とは甚しく違ふのだからクラブ中心に事更こだわる必要はない。クラブ中心といふことが案外新しい形のクラブは課外活動を産むかもしれない。喫茶室などに見られる文化祭の質的低下、皆の軽卒な要求に迎合的に答えるようなお祭り騒ぎは自治会が自らの墓穴を掘つてゐる姿である事を忘れてはならない。

規約改正

① 規約の改正はいかになされるべきか。  
規約の改正は慎重に行わねばならない。しかし慎重すぎてこれが全く出来ないのでは規約は死文化する。規約は常に慎重に変えてゆかねばならない。

② 規約の改正はどこを源を発するか。  
規約の改正の音が上り出した当時の社会状況は安保を中心に動いていた。高校生も非常に政治に関心を持ち、また直接行動を取る者も多かつた。そんな時以前の(現在のものもこの点では多くは変わっていないが)規約は「非民主的」だつた。彼らが口にしたのは規約の民主化だつた。学校が高校生に政治活動を許さないといふだけの事であつて学校に対して直接矛先は向けられるべきだつたのだが、しかし今や状況は変化した。外界に敏感だがアジテートされやすい高校生はおちつた。規約の改正にみ

えた当初のマトはずれな「民主化」は机上の空論に化した。しかし多くの本部役員はこれを固執した。仮定の上に立つてすべてをすすめねばならなかつた。しかし仮定の議論を許すほど現実が容易ではなかつた。そこには無関心が渦巻いていた。現実から遊離した議論に会員は無関心をもつて答えた。

現実と規約の離反こそ改正を生む唯一の源泉である。ここに我々以前とはちがつた意味の規約の改正を行なわねばならなかつた。我々は、無関心を規約の改正によつて一掃しようなどと考えていたのではない。規約の改正をすてて現実に戻る事が無関心に対する唯一の道だと考えた。しかしそこへは容易に戻れそうになかつた。機械は錆ついていた。単期間の修理でこれを動かす事は不可能だつた。我々は新しい機械を用いねばならなかつた。

③ 規約の改正今後

規約の改正は現実に即したものだつた。現実たるや低調な現実である。規約の改正は自治会の縮小と思つた。縮小を伴わずにはおれなかつた。しかしそれは新らしき成長のための縮小である。ちぢんだパネが新しき情熱を吹き込まれ大きな飛躍をせんことを祈つてやまない。

① H・Rとの関連  
H・Rとの関連  
自治会の機構のすべてはH・Rにあるといつても過言ではない。H・Rに居る自治会委員とH・R員との関連こそ自治会機構の本質である。しかしながらこの事が軽視され続けてきた。本部役員は自らが本部という名の示す如く機構の一部でしかない事を自覚せず、すべての事を役員だけで処理しようとした。彼らのやる事は会員と直接には繋がっていない。彼らが働けば働くほど本部は孤立した存在になる。

H・Rとの直接関連を持つ部会こそ重要視されるべきである。  
H・Rの一人一人の会員が自治会活動の主体であり、H・Rに在る部員こそ自治会機構の中心的存在であり、本部役員は常に触媒的存在であり、またそうあるべく努めねばならない。

② クラス交流  
校内事件の度に思うことだがH・Rが孤立している。それも学年が下るにしたがつてその傾向は著しい。階級闘争のための連帯などといつたら場違いでまつたくお笑いだが、三年で大騒ぎしているのに一・二年では細波も立たないのでは困る。自治会の持つ意義の一つは色々な事に当り皆で考え悩む所にある。故にH・R間にもつと交流があらねばならない。我々は学年間クラス交流を行なつたが、案外よさそうである。学内問題はそつちのけだつたがクラスの問題、個人的な悩み、人生観、世界観、恋愛観、話す内容は雑多だが、互が悩

み考える。学年が違ふクラスではより有効なように思える。二クラスの良い点が合わさつて一段高い位置に行くのはまちがいなさそうである。

## H R 委員と自治

### 会各役員（ふろく）

おしま

戦後二〇年、戦後つ子がもう大人として社会に迎えられはじめた。

今こそ見よう見まねの民主主義から地についた民主主義に移り変わる時期ではないだろうか。我々がここで創成期としての最後の一押を、ほんの一押をおこたつたならば時代は高い坂の上から大きな音をたててころげおちるにちがいない。我々においても、反動教育が目立ちはじめた。民主主義教育のメツカたる自治会はこれに先きつて対処せねばならない。それには自らの体作りを完成するのが一番だ。

彼ら反動家たちの伸びと我々の伸びとの差がすべてを決定する。

H R 委員が学級で選出される際それが自治会の委員をまた選んでいるのだということが認識されていないのでは

ないか。選出された人もまた自治会にはちよつと手を貸すくらいにしか思っていないのではないか。

彼らが自治会の委員でないとしたら自治会は動きえなかつた事実から彼らの自治会役員たる事はだれにもすぐ感じられるはずなのだがこれがうまくいっていない。歴史的にH R と自治会各々の委員を考えてみると、H R の組織誕生以前に自治会の組織が生まれている。だからその当時生徒手帳があつたなら自治会役員（兼任H R 員）など書かれていたのではないか。会長と学級代表の関係を見ると、元はほんとうに学級の代表としてただ一人「学級代表」あるのみであつたが、H R のみの

仕事の時、自治会が関係すると支障が多いので会長が生まれた。

上の如き考え方は自治会を組織と、空な属性とからのみ考えてその実体が生徒そのものであることを意識しないものである。

自治会は生徒の自由意志そのものであるのにそれ以外に生徒の自由意志たる選挙で選ばれる存在は不思議である。こころあたり生活臭をおびた公共性と、存在の必然性をもたない、属性から存在の本質まで規定され、存在してその実意識のそれと真のそれとが離反している自治会の姿が、またその源をなす考え方があるのではないか。

上の考え方に賛成であろうとなかろうと、H R の委員がH R の世話のみをするのではなく全体の生徒を対象としている自治会の屋台骨でもあることはだれの心にも今度明記されるべきである。

## 反省するの事

副会長 小西紀一

一月の下旬のある日に頃から「スプリングにだす反省記みたいなものを書いてくれ。」と言われて考える事数週間、やつと筆を取り上げて書き出したのがこれである。一体何をそんなに長く考える事があるんだと思われる事である。僕自身何を考えているのかわからなかつたくらいなんだから。まあ反省しなければならぬのは、僕達が立候補したその時からなされねばならないのであるが、ささいな事の一つ一つに言及すれば、いくら頁数があつてもたらないので（実際の所それ程にまじい出来ればばかりのものだつたらう）皆にもよく知られた大きな出来事を二三取り上げて反省する事にしよう。時の流れに従つて考えるならまず誰の頭

にも浮かび出すのが第一回目の総会の事。いくら会長が、「まずくやります。一なんて言つたからといって、あれではまずすぎた。もう皆初めての事なので、すつかり興奮してしまひ（興奮させられてしまひ？）自分でも何を言つてるのか判らなかつた様な状態であつた。不勉強がたたつて議事進行は京阪電車なみのデタラメ、まず最初に予想以上に困難な仕事である事を痛感させられた。それ以来、何か事があれば必ず周到なる準備をする様努めてきた。最も、それらに加えて要領こそ最も必要なものである事を覚え、多分にそればかりで押し進んで来たきらいもないではないが。総会をマネージして

ルフィツシユであると言う事、なお悪い事に、おのれの意見が絶対正しいのであつて他の何者が何言を言おうとも聞こうとはせずに、強引に説得にかかると。言わゆる破壊的な奴ばかりである。いや失言、なかにはなかなかもつて建設的な意見を述べられる方もおられる。どうしてその様な意見を理解しようとして辿り着く結論はいつも、「あいつらは、いじ悪なんだな、まあそれも御愛嬌さ。」……こう思つて総会をながめてみると、これも又なかなか面白いものである。かくて心に余裕も生れ、案外にスマートに議事が運べると言う次第である。まあ、道化になれと言つて総会の事や代表会議の事はかりを気にしてればそれでいいのと言えれば、決してそうではない。要領が悪ければ、最も忙しいポストではないだろうか。要領が悪ければ……次に思い出す事は、そう文化祭である。



これはクラブとのかけもちをやつたため、それこそ目もまわらんばかりの忙しさであつた。まず手こずつたのが国民会館との交渉。こちらは何とか安く上げ様とし、相手方は出来るだけ高く取るうと必死である。西鶴顔負けのシーンも頻りに飛び出して来る。

あまり無理な事を言つて相手を恐らせてしまえば、もう何も出来ない事になるし、かといつていいなりになつてれば、学校に帰つて会計にしかられる。まあそれでも最後には、ここ数年来のよしみから、お互いに一歩づつゆずつて和睦と言う事になる。

次に僕等を悩ませたのは、プログラムを組み方、それに関連して二日間にするかどうかと言う事。その事についてはとやかく言うまい。結果は皆の知つてゐる所だ。ただ残念であつたのは、やはりここ数年間のマンネリの風潮を脱しきれなかつたという事である。せっかくの二日間最上等に利用すべきであつた。さあ、文化祭まで済ましたこ

ろには、皆すつかり仕事板についた感じで、何事もわりとスムーズに運ばれた。もともと気の知れ合った役員に加えて、文化祭を手伝つてくれた人も混り、にぎやかなおしやべりが聞かれるようになった。端から見た目には、本部の奴は、いつも少年マガジンを読みながらつまらん事ばかりダベつると言う事になるのである。マンガを読んでばかりいて本部役員が努めるのなら、来期も又やらせてもらいたいものである。最も、本部役員の一入が懸念の人を通じて、大置にマンガの本を流し込んでもらったのは事実であるが、それを称して「本部用文学全集」とは、知る人ぞ知る事である。唯、一つ不思議に思うのは、誰から聞いたか知らないのだが、一人こんな事を言つて来た人がいるという事だ。「オイ、少年サンデー〇号は？」……どこからもれたのだろうか？　ここまで聞いてれば、平和ムード満喫で結構なんだが、たまには大論争を闘わす事もある。

て来た事に対する責任が全て解かれるものではないので、これからも、何かにつけ、僕等のまずかつた点に気づかれた方は、ご苦労さんだが、教えに來てもらえないだろうか。そういう付録があつてこそ、始めてプラクティカルになるのが、反省である。

## 会計活動報告

会計 黒田建一

員全部が全部同じ様な氣質の者が集まつたので、当然気の合う相手も限定されてくる。つまり一方に片よるといつた結果になるのだろう。そうだとすれば、その様な両極端な存在もしかたのないものだと言える。唯、人間的にはどうであろうとも、その行動までをも嫌われない様には、しなければならぬであろう。

この様に、このポストを通じて得た事は、沢山ある。将来どういう形で僕の身につくのかは知れないが、労のわりには、むくい少ない仕事であつた事もちよつびり言わせて頂きたい。それにしても、なまけ者には、勉強をサボるいい口実であるし、世間知らずのお坊つちちゃんにはいいミキサーである。

とんでもない所に話はそれてしまつたが、今までの事をまとめ上げて言うとするなら、「なせばなる……」。一言につきてしまふと思う。とまれ、任期が切れたからと言つて今までやつ

通りがかりに耳をはさんだ者は、何とこの本部、仲の悪い。四人のメクラと象さんのお話である。ここで僕は、その論争の最後まで聞いて欲しい事を述べる。いいですか。いくら声を張り上げての論争の後でも、その帰途では声を張り上げて合唱しながら帰る仲間である。

よく僕等の事を誤解されておられる方が多いのでこの場をもつてその実体をお知らせする。さて次に言わねばならない事と言えば、規約改正の事になるのだろうが。この事の結果の良し悪しは、数年たたねば判らない事なので、ただただ、熱心に我等を助けて下さつた方々にお礼を述べただけで許してもらおう。

一つ気にかかる事に、こういう事が「今度の本部の奴はつきあいにくい奴ばかりだ。」と言う者があるかと思えば、「ええつ本部役員？　アホな事言うて喜んどうる面白い奴らや」どうであろう。思うに、今度の本部役

臨時支出もあるといつた具合で、とにかくその量の多さにまいる。そして一方では自治会本部における困難で大きな問題を考えなければならぬ。この二つの、ある意味で系統の違つた仕事をしている、どちらかがおろそかになる恐れがある。幸いにして、規約改正の重要な問題が比較的仕事の少ない時期にあつたし、今期から会計補佐が正式に認められて、事務的な仕事を幾らか減少させることができた。現在の補佐は途中からなのでまだ仕事の内容をよく理解していないが決算期の頃にはもつと働いて貰えると思う。

会計の役目は、会計本来の金銭関係の仕事と自治会行事に関する仕事の二本立である。

金銭関係の方は、その性質上わずかのゆるいも許されないので、細かい神経を必要とする。文化祭での各クラブの予算申請のように一時にまとまつて来る仕事もあれば、厚生部の花代のように定期的なものもある。又、ラグビー大会のメダルやライン引きのような

金銭に對する考えがいかにいい加減な

身も考えねばならない。さて、この仕事をして、我々学生の金銭に對する考えがいかにいい加減な

ものであるがよくわかった。と言う

より、金銭には馴みが薄いという事だ  
ろうか。おとなの考えと違ふのは当然  
とも言えるのだが、会計の立場から、  
それを端的に示している例を二、三あ  
げてみよう。クラブの予算申請の時、  
殆どのクラブは申請書についている受  
領書と請求書控をそのまま全部出して  
来る。また、あるクラブで何か収入が  
あると、領収書を請求せず、現金を本  
部に置いて行く。いずれの場合も、ク  
ラブ側には実際の支出、収入の何の証  
拠も残らないのである。クラブ会計が  
本部へ来て予算の残高を尋ねるような  
事もある。「自分のクラブの会計位は、  
責任を持つてくれ。」と言いたくなる。  
もつぱらクラブを攻めるようになった  
が、会計業務はクラブ関係が大部分を  
占めているので、どうしてもこのよう  
な事が目立つのである。今まで自発的  
に直してくれるのを待つていたが、そ  
の可能性もなきそうなのでこの機会を  
利用して、各クラブに注意を促す事に

した。

このような金銭に関する考え方の杜  
撰な事はクラブだけでなく、一般会員  
にも言えると思う。例えば、皆は会費  
の行方についてどの程度知つているだ  
ろうか。おとなさえ税金の使い道を知  
らないのだから、まして親の金で払つ  
ている自治会費に無関心なのは当然だ  
ろうか。僕は、むしろ会計に対する無  
関心は、自治会に對する無関心を如実  
に示しているのだと思ふ。勿論本部に  
も多分の責任があるとは言え、会員の  
無関心さは目に余るものがある。自治  
会本部が最も欲しているのは皆の積極  
的態度で、これがなければどうにもな  
らないのが現状である。会計の活動報  
告と共にこの事を書いて終える事にす  
る。

## 庶務部活動報告

向 千衣子

自治会規約の庶務部の規定には「本  
会務上に必要な庶務関係事項及び諸問  
題を受け持つ」とあります。各クラス  
庶務部員は、この庶務関係事項、すな  
わち自治会連絡箱の中の印刷物を各ク  
ラスへ持つてかえつて配布すること、  
それ以外にも出欠をとつたり、その他  
諸々の雑事があります。その他に庶務  
部の仕事として落し物の管理もありま  
す。さて一九六四年度後期の庶務部活  
動を振りかえつてみますと、いつもの  
会期とは比べものにならないくらい  
沢山の仕事に、一年生で、しかも初め  
て自治会務にたずさわつた私には、何  
もかもが知らないことばかり、正直言  
つて少々もてあましたこともありまし  
た。私達の会期が始まつた十月はじめ

自治会連絡箱が新たに誕生しました。

今までは本部の活動、各部の仕事等、  
一般会員が十分に理解していなかつた  
ようです。(僕は何が決まつたのか  
全然知らん。つんぼさじきやーとい  
言葉をよく聞きました。)そこで両者  
の意志の疏通をよりよくするために、  
連絡箱が登場したというわけです。文  
化祭・スリツパ問題等に連絡箱は大き  
な役目を果たしました。

大手前における唯一の生存競争の場、  
昼休みの食堂の混雑も、去年を限り  
姿を消しました。新一年生の方には想  
像も出来ないでしょうが、全くすごい  
ものでした。いかにしてあの黒山の  
ごみを押し分けて中に入るか、どうし  
たら早くラーメンが食べられるか、こ  
れは食堂を利用して居る者全ての問題  
でした。ちようどラツシユ・アワの  
通勤電車のようなもの、くつはふまれ  
服はひつばられ、そして運の悪いとき  
には、ラーメンの汁が手や首すじに流  
れるしまつです。そこで庶務部の中に

食堂混雑対策委員会を作り、いろいろ  
協討した結果、合同庁舎の食堂にヒ  
トを得て手すりをつけるのが、一番い  
いということになりました。冬休みに  
学校側が工事をして、ごらんの通りの  
手すりが出来ました。それ以来、食堂  
は毎日、行儀よく並んだ列ばかり、混  
雑などみることがありません。

誰一人として列をみださない。ここに  
大手前生の良識が表われているのでは  
ありませんか。みなさん順序よく並んで  
楽しく食べて下さいね。

ここで昨年大手前中を騒がせた、ス  
リツパ禁止問題について一言、スリツ  
パ禁止は一学期終業式の日に発表せら  
れ、十月から実施ということになりま  
した。そして猶予期間の九月中、又生  
徒総会の場で学校側の態度、生徒の自  
主制、そしてスリツパとクツの賛否論  
に至るまで多くの討論がなされました。  
しかし期間がたつにつれて生徒の間で  
も、もう決まつてしまつたから仕方が  
ない、などの風潮がたかまつて、立

ち消えの形となりました。しかし庶務  
部のアンケートをキツカケとして、本  
部役員並びに庶務部員と職員との懇談、  
会がもたれたとは一つの収穫でしょう。

やがて会務の終わろうとしている今何事  
にも力のいたらなかつたことを深く反  
省すると共に、今後の自治会活動が、  
あなた方の手でよりアクテイブなもの  
となることを祈つて、ペンを置きます。

## 厚生部活動報告

大角 幸三

食堂値上問題で多忙。また後ほど

## 集會部???.告

鍵 本 喜陽志

集會部など無い方が良いのじやない  
かな。実際あつても仕方ないヨ。  
そう言えば自治会も……部として

文化祭アンケート集計表

質問	学年			
	I 年	II 年	III 年	計
1	47 (59.5)	67 (60.9)	34 (40.5)	148 (54.2)
2	15 (18.9)	21 (19.1)	26 (30.9)	62 (22.7)
3	14	18	24	56 (20.5)
無効	3	4	0	7
計	79	110	84	273

質問	学年			
	I 年	II 年	III 年	計
1	69 (87.3)	99 (90.0)	60 (71.4)	228 (88.0)
2	5	1	10 (11.9)	16 (5.9)
3	3	8	14 (16.7)	25
無効	2	2	0	4
計	79	110	84	273

( ) はパーセンテージ

- ① 賛成
- ② 反対
- ③ その他

アンケート配布数 900枚  
 [各クラス80枚づつ]  
 回収 273枚  
 回収率 30.3%

言つてはうつつ置くわけにはいかない。なぜなら、この事によつてせつかくのおもしろい熱心なる(?)演技を觀賞することができず、ひいては「やじ」や「紙飛行機」を招く原因ともなるからである。しかし抜本的対策と言えば、座席数不足(座席数約一二〇〇本校在校生一五〇〇)とも関係するが、それはマイク設備がよく、座席数も十分な会館を借りることであるが、お金がないのと距離の関係でまず不可能。しかし四〇年度からは、ワイアレスマイク(自治会所有)使用によつて少しでもよくなるのではないかと。

② 広い国民会館にゴミ箱がほとんどなかったということ。

舞台行事終了後、会場にはゴミがたくさん散らばっていたので実行委員の人員が掃除をしたが、ゴミ箱の一つでもあればこれほどのたくさんのゴミが散らかることはないだろうと思つた。

③ 幕間の呼び出しが、可か不可かはつきりしていなかつたために、呼び出し

文化部活動報告

文化祭をかえりみて

赤司克彦

やることなんて何もない(イヤ、ナカツタ)ヨ。第一、動こうつたつて部会も開けやしなかつたモン(集まらなかつたモン)集会部員。朝礼、変な部長の一人芝居。総会、一部の道化芝居。イヤ、こんなの関係ないネ。(デモ傍で会長が、何か書け、原稿チヨツト足りないからつて、にらんでオシヤル)支離滅裂、失礼、ゴメン。

「人間が生きる」つて恒常根本問題を我々自身で考え、我々自身で行動しよう……と自由討論会でもやろうつて……: : : : アーア、敗けた敗けた。無駄だつた。無理だつた。挫折。何を書こうか。あと二行とチヨツト。何か書かなくちやア。何かしなくちやア。そう何かやろうヨ、しようよ何かを。

以上駄弁駄作  
 (ヘンナかぎもと)

文化祭をふり省つてみると、あそこは、ああすべきだつたとか、ここは、こうすべきじゃなかつたなどといういふことが浮んでくるが、文化祭後の反省会とアンケート結果などを資料として、じっくりと文化祭を反省しよう。

我々は、今年度文化祭の目標を二つ掲げた。一つは、(1)「クラブ偏重の文化祭から、全生徒自からが参加する文化祭へ。」そしてもう一つは、(2)「いわゆるお祭りの自治会祭とは、はつきり区別される文化祭に。」これら二つの目標を達成するために、新しく三十日の展示の日にクラス参加と討論会と講堂における舞台行事を試みた。

(1)に関しては、アンケート結果表(1)を

参照していただきたい。クラス参加はその後のアンケートや反省会などの結果、まず、大成功であつたと言つてよいだろう。

このクラス参加が今年だけに終らず、来年度(S四十)には、より充実したものとすることを願う。

(2)に関しては、表(2)参照。文化祭と文化の名がつく以上は、文化祭は文化祭として文化の名に恥じない意義というものがあるはずだ。

それでは、次に文化祭運営上での反省を述べよう。まず、国民会館舞台行事で、一番気づいた事は、①マイク設備が悪い。したがつて劇などの時には、後方では声が聞えなかつたということであつた。これは国民会館側の責任と

依頼人に迷惑をかけたということ。来年からは、たとえそれによつて幕間が少々長くなることも、場内放送による呼び出しを可とするのがよいだろう。(4)一九六四、第十七回大手前高校文化祭」というようなついでが正面玄関になかつたということ。

- ⑤上演中迷惑な「やじ」をとばしたり紙飛行機を投げた人があつたということ。しかし、これの解決方法は大手前生の良識と演技内容の充実以外にはない。
- 次に三十一日の展示に関しては、
- ①展示教室の入口と出口の区別がはっきりしなかつた。つまり、入口と出口を区別している教室もあれば、そうでない教室もあり、入口とおし出口どうしがぶつかつているところがあつて、一般の人に迷惑をかけた。来年度からは校舎ごと、入口出口を一定方向に設けて見学順路をスムーズにするのも一方法。
- ②「展示は文字が多いと読みづらい。

読まなくても、一目見るだけで理解できるような図示・写真・模型又は聴覚的な展示を望む。」という意見がアンケートに多数見られたということは、それぞれのクラブの一考を促したい。

- ③前日の展示準備の時間(六時半まで)が非常に短かつた。これは展示が土曜日でその前日が金曜日であつたことが大きな原因。金曜日は定時制授業との関係からあまり遅くまで居残ることとはできない。
- 次に催物に関しては、①金欄会館の映画上映で社研の映画が時間切れで途中で打ち切りとなつたが、このように時間どおりにいかなかつた原因はいろいろあるだろうが、一つは映画とレコーダコンサートで鑑賞する時の机の向きが違つたために、それぞれの開始に手間どつたということ。また社研の映画上映に際して、社研の関係者が一人もいなくなつたということも一考を要する。
- ②フォークダンスの始りをもつとスムーズにする。そのためにクラスを利用

するのも一方法など。次に喫茶室に關しては、①机とイスがいつも勉強するのと同じではふしやない。堅苦しい感じがする。②種類(コーヒー、ケーキ)だけではないか。③ケーキの売り方が現金即売といふことが徹底してゐなかつたために利用者に迷惑をかけた。なごであつたが一般に喫茶室は評判がよかつた。次に二日間実施したことに關しては、①二日間実施全面的賛成、二日間では充実した文化祭とすることはほとんど不可能」という意見が圧倒的に多く、「二日だけよい」という意見はほとんどなかつた。今年度の実績からみて来年度からは二日間実施が恒久的なものとするのではないかと②欲を言えば、土・日よりも、日・月の二日間の方がよい。その理由としては、○展示は日曜実施の方が後片付けと、その前日(土曜)の準備時

きる。○舞台は月曜実施の方が一般入場客が少ないのでただでも足りない座席数にとつては好都合、など。

## 規約改正を顧りみて

書記 河野裕利

昨年規約改正をしたが、これを顧みて考えてみたいと思う。文化祭が終了後、十一月十六日に第一回の規約改正のパンフレットを配布し、十一月十七日、代表会議議員で審議会を構成、十一月二十六日、代表会議が改正原案を承認、十一月二十七日、生徒総会に提案した。が、定足数不足などからみ、紛糾、全校投票で承認することを決定。十二月三日、臨時総会は定足数不足で開らけず、十二月七日、朝の全校投票で改正を承認した。かなり急ピツチの改正であつたが、この間パンフレット等は全会員に三回配布、学年集会、学級討論などを行つた。しかし全体的にいって会員の改正に対する関心が高かつたとはいえない。

さて、今度の改正のもつとも注目すべき点は、定足数の8/4+8/5であるといえる(と私は思う)。旧規約が作られた当時には、民主主義という考えが、どつと日本にはいつてきた。少なくとも、表面的には民主主義というものが国民の間に尊重され、自治会においても定足数という問題もなかつた。総会を抜け出して勉強したり、遊んだりする者はいなかつた。それから二十年近くの月日が流れた。現在、選挙といへば国会議員の選挙から村会議員の選挙まで違反だらけだし、国会から村会まで民主主義のルールを守り、民主主義を理解し、尊重してゐるとはいえない。(国会においても時々、議員が乱闘一步手前のことをしてゐる)ここで必然的に、「民主主義とは何か」という疑問がおこり、不信が生じてきている。これは民主主義についてだけではない。戦後日本にはいつてきたものすべて、戦後日本それ自身についていえる。憲法問題などは、そのもつとも根本的かつ代表的なものといえるし、最近だされた、「期待される人間像」などにしても、この一例である。明らかに現在では、民主主義を含めて戦後日本の転期ないし危機といえる。この時代の影響は、学校内にも反映され、本校においても、「自治(会)とは何か。」といふことがしばしば議論となり、「総会みたいなものにするものか。」といつてでない人が多くなつてきた。その結果、総会は定足数不足となり、規約どおりには開けない状態となつてしまつた。そこで今期規約の改正をしたわけだ。が、もちろん、それですべてよくなるとは、どんな馬鹿な人でも思わないだろう。(なまげな

最低限度のことができるようにしただけである。

「自治(会)とは何か。」これは難かしい問題である。しかし、総会へ出るという最低限度の義務ぐらゐは果すべきだ。総会へ出ない人は、選挙権を

放棄する人や、選挙で買収される人と同じである。民主主義を冒瀆するものである。どんな弁解の余地もない。そういう人は、もう一度自分の胸に手をあてて考えてもらいたい。

校長の最高決定権を筆頭としてあげられる学園生活の権利について、何らふ

れていないあんな改正が何になるのか。」と云う。又あるものは「規約改正する前と今とを比べても、僕達の学校生活に変化はない。『全体を盛り上げようと思つても、現行の規約ではどうしようもない。』改正する時、会長はこ

う云つた。しかし改正されて二ヶ月たつているが、改正によつてその活動が活発になつたとも思えない。こう云う

とあの規約改正はやらなくてよかつたんだとも云える。しかし自治会役員が云つたように、実際にあの人達が自治会運営にたずさわつて、不便を感じて

いる点を直したというのだから、僕達自治会に關係のないものは、別に、規約改正は我々の自治会活動にどんな発

展をもたらしたか、などと云う必要はないんじゃないか。僕は規約改正に、そして自治会に、クラブ活動以外では

關係ないのだ。」と云う。

最高決定権云々はまた後で述べると

## 規約改正以前と以後

二年 加 藤 薫

私達は自治会活動と称するものを、非常に狭く、つまり自治会＝生徒総会ただそれだけとしか見ない傾向にあるのではないだろうか。大手前に入つて約一年を迎えようとしている現在、入学当時は、この大手前生活に少なからぬ期待を抱いていて、それが事あるごとに、無残に、大きな音をたててくずれていつた私は、今さらながらその感を強くせずにはいられない。

近くは、昨年の十二月に行なわれた規約改正がそのよい例である。規約改正は、私達の自治会活動＝学校生活に何を与えたか。こう聞かれると、はたと考えこむ人も多いのではあるまいか。私はこの質問を多くの人に試みてみた。そしてそれは大別すると、二種類に別れるようである。あるものは憤懣やるかたない様子で「あんな事務的なことで右往左往してどうするのか。

近くは、昨年の十二月に行なわれた規約改正がそのよい例である。規約改正は、私達の自治会活動＝学校生活に何を与えたか。こう聞かれると、はたと考えこむ人も多いのではあるまいか。私はこの質問を多くの人に試みてみた。そしてそれは大別すると、二種類に別れるようである。あるものは憤懣やるかたない様子で「あんな事務的なことで右往左往してどうするのか。

して、ここではまず、後者の発言に注

目してみよう。彼は「僕は規約改正が良かったとも、何とも思わないが、自治会役員が良かったら、それでいいじゃないか」と云つてゐる。これは新規

約の内容があくまで事務的なものであつたのが、大きく影響しているのだが

……。そして彼は既成社会への消極的願望を、ため息一つで成し遂げる。

大手前生一般の姿である。

「僕は自治会に關係ない……」

大手前生一般の代表選手のような彼でなくとも、もういたるところで、この

様な言葉は使われている。しかし大手前生以外のいかなる集団も加入してい

ない。この大手前自治会に、私達大手前生のはかに關係ある人物が存在など

しているだろうか。私達一人一人は、大手前という巨大な一つの生物体の、

その一五〇〇分の一の小さな細胞にすぎない。そしてその小さな細胞一つでは何も出来ないことは、私達細胞が一

番よく知つてゐる。そしてもう一つ、

私達が結束した時、その細胞集団は、

その巨大な生物体を活動させることが出来得ることも、知つてゐる。貴重な

時期を有意義に送りたい。誰もがそう思つてゐる。そして勉学を中心として

回転する学校生活の潤滑油であり、私達が結束する唯一の場は自治会であ

る。「私、自治会のことなんか、興味ないの」とか「どうでもええやないか

」と云うような、無関心族が多いのは何故だろうか。この問題はかつて、

そして今も多くの方々が、自治会不活発の理由として話されたり、書かれたりしてゐるが、ここでは私の考えを少し述べてみよう。

こらんの通り、大手前自治会は不活発である。(もつともこの無関心の風

潮は単に大手前のみならず、拡大視したそれは、現在の日本の政治と國民との

關係にもなるわけだが)本部役員はいつもこの原因を、一般会員の無関心

になすりつけてゐるようだが、何故無関心なのか、一度考えてみよう。

教師はツツカケまで禁止するし、長い間体育館におしこめられて、総会で決議されたためしがない。運営もまずい。帰るのがおそくなる。サボるか。」これが、みんなの大たいの声ではないだろうか。自治会不振の根本原因は、一般会員の無関心であり、そしてそれは自治会の無力に由来し、これが又学校側の態度と相まつて悪循環をおこしている。自治会の本来の目的、それは私達の学校生活を自ら治めることによつて、民主主義の根本精神を養うことにある。しかし、現状では民主主義にとつて最も恐れるべき無関心が幅をきかせてゐる。真の自治会の向上は、現状を打破せずには考えられるものではない。現状の自治会の姿では、生徒が最高決定権を持つことに、何らかの不安を持つものもいるだろう。しかし彼らに不安を抱かせるところの現状は、打破されなければならぬ。近き未来の理想としての自治会は、決定権が生

徒にあつても、教師の指導からすつかり切りはなされたものではない。現在の校長の最高決定権が意味する。命令・禁止の指導ではなくて、「共に考え助言する」と云つた、現在の指導ではなく理想としての指導は「職員と生徒が対等の協議会」とよつて十分にされるはずである。それが正しく行なわれたならば、現在の両者の間のモヤモヤとした不信感、それはスリツパ禁止問題によつて火に油がそそがれたようになったが、などどこかへ消えうせてしまふだろう。規約改正のとき自治会会長は、最高決定権問題を議論のための議論、改正のための改正だ、という発言をしたが、その愚はもう既に指摘されている。規約改正が、まがりなりにも実現した現在、立会演説会からはもうあの云い古された、そして役員自身でさえそれが済んだら、ケロリと忘れてしまふような、ただの題目だけの（昨年の前期のそれ）空虚な「規約改正」という言葉は姿を消すだろう。今

こそ、ニセ物が姿を消し、本物だけが残る時なのだ。今度みんなの内から湧き上つてきた「規約改正」は、当時は真剣な論議がなされていたとしても、五・六年たつて全てに熱がさめ、役員立候補者が立会演説会のみで使用する言葉「規約改正」とは、はつきりと區別されるものである。規約改正は終つたのではない。いやそれどころか、これから始まると云つてもいいだろう。昨年の改正を、より高い飛躍を試みるジャンプ台として、今度こそ、自治会会員が不合理だと思ひ、これではどうしようもないと考へた点を（自治会役員のそれにあらず）改正して行くのだ。それが真の意味での規約改正であり、（規約の字面をひねくるのは、本質的に異なる）、行動のための手段としてではなくて、行動の上につきづかれるピラミッド目的としての規約改正である。

詩

コーラス大会より

すべてはそこに

見いだされた

旧二ノ一ノ二ノ二ノ二ノ

コーラス大会は偉大であつた。

私達は精一杯歌つた。

彼の指揮も感動的だつた。

全力を出し尽せた喜び

歌い終わると飛び出た笑い、

みんな素直な笑いだつた。

聞いた風なことをいう奴も、

だまりがちな奴だつて

時間に追われる奴だつて

みんな素直に笑つていた。

クラスの意義はここにあつた。

「クラスの一人なんだ」という喜び、

校内大会に思うこと

校内大会における

不戦勝

二年 金沢陽子

私達の学校では、校内大会が実に沢山ある。それらの試合の中で不戦勝とすることがあるが、それはどれだけの意味があるのだろうか。先日ハンドボール大会では、私達のクラスが一時不戦敗になるということが起つた。私達も誰も放送による試合の知らせに気が付かなかつた。それで私達は試合放棄ということになり、不戦敗となつた。幸い、審判の好意により再試合ということになつたが、相手のチームにとつてはそうとう不満らしかつた。不戦勝、これは相手チームが来なかつたら、どんな理由であるかと認められるのであるか。私は、それには賛成したくない。

い。まして校内大会においてなんて、考えねばならないことではないだろうか。試合に來られなかつた。これはすつばかしてはないという場合、高校の校内大会においてだと、再試合をした方がよいのではないかと思へる。クーベルタンも言つたように、オリンピック（校内大会）は勝つことよりも試合に参加することが大切である。ということば、実にこれである。時間の余裕があるのだつたら、少しでも多く試合をすればいいのだ。校内大会においての意義は、出来るだけ多くのクラスが参加し、全校生徒内の交流をはかるうということにあるのだ。現代に生きる青年は、ただ勝つこと、生存競争の固りである。こういう時に、お互にゆずり合う気持、皆が楽しむという気持があつたらどんなにすばらしいことか。何においても、もつと真の意味を考へて、高校生活を有意義におくりたいものだ。

詩り、

教師の押しつけに反抗せよと

教師の空な理屈に拘わる必要はなかつた。

つた。

聞いた風な口をきく必要はなかつた。

みんなそれぞれ生きていた。

一生懸命生きていた。

自覚を持てと叫ぶ必要はなかつた。

みんな悩み、一生懸命生きていた。

この素直な喜びにすべては

すべては現われていた。

大学は嘲笑われた。

（黒瀬筆記）

# 代表会議事録

昭和三十九年度前期

## 第一回定例 五月二日

議題

- 一、予算原案作成に関する規定の件
- 一、予算申請書及び関係書類作成の手引きの件
- 一、自治会祭準備委員の件
- 一、各部委員の選定の件

決議

- 一、予算原案作成に関する規定一部除き承認
- 一、自治会祭準備委員承認

- 常任委員十二名 和田一彦、岸広子、中野芳夫、仲井徹、寺西浩子、中谷英明、永野千英子
- 一、各部委員の選定は本部に一任

## 第二回定例 五月六日

議題

- 一、規約審議委員会委員の件
- 一、運動部長代理の件

議題

## 第四回定例 五月十九日

## 第三回定例 五月十二日

議題

- 一、プラスバンド部設立の件

決議

- 一、プラスバンド部設立否決(719)

- 一、プラスバンド(音楽部の一部として)の設立の件

決議

決議

- 一、昭和三十八年度決算報告の件
- 一、総会(六月十二日)の一般議題の件

決議

- 一、規約審議委員会委員承認  
常任委員 杉本茂(二ノ二) 岩臨正人(二ノ七) 大隅俊宏(二ノ七) 長谷川享子(二ノ七) 池上俊郎(一ノ八) 速水賢一(二ノ九) 芝池康子(二ノ九) 上窪良和(二ノ五) 西村公雄(二ノ十)
- 一、運動部長代理稲垣昌一承認
- 一、プラスバンドの件はクラ連にまわす

## 第五回定例 六月九日

議題

- 一、昭和三十九年度予算原案の件

## 第六回定例 六月十日

議題

- 一、昭和三十九年度予算原案の件

決議

- 一、スプリングの発行費十六万円とする。

## 第七回定例 六月十一日

議題

- 一、昭和三十九年度予算原案の件

- 一、予算原案作成に関する規定の件

- 一、規約審議委員会委員の件

- 一、総会(五月八日)の一般議題の件

- 一、自治会祭運動場使用の件

決議

- 一、総会で一般議題をとりあげる。

- 一、予算原案作成に関する規定全部承認

## 臨時 六月十八日

議題

- 一、能研研究会の件
- 一、新潟地震被災地復旧の募金運動の件
- 一、規約改正の件

決議

- 一、能研研究会の設立否決(六一七)再検討する。
- 一、募金をするから生徒に協力を要請する。
- 集まつた金はS.C.I.(ユネスコの一機関)に送る(予定)

## 臨時 六月二十日

議 題

- 一、能研資料配布の事後承認の件
- 一、能研問題を本部がとりあげる件
- 一、能研と規約改正についての二年学年集会の件
- 一、放送部予算（ブリアンプ）の件

決 議

- 一、能研資料配布事後承認
- 一、能研問題を本部がとりあげることを承認

第十一回定例 六月二十三日

議 題

- 一、プラスバンドの件
- 一、北野交歓のバス代の件
- 一、新潟地震の募金の件

決 議

- 一、北野交歓のバス代（一万六千円）承認
- 一、新潟地震の募金（二万余円）S C I に送ったこと承認

第十二回定例 六月三十日

議 題

- 一、クラブ設立及び廃止規約案の件

第十三回定例 七月三日

議 題

- 一、クラブ設立及び廃止規約案の件
- 一、クラブ設立及び廃止規約案承認

決 議

第十四回定例 九月八日

議 題

- 一、運動会実行委員の件
- 一、印刷機の件
- 一、スリツバ禁止の件

決 議

- 一、運動会実行委員会、常任委員十二名 学年別に各一名、陸上部二名、代表会議より学年別に各一名、応援団二名、及び各学級数名（これは当日のみ）とする。一（仮承認）
- 一、印刷機（九万八千円）を予備費で購入すること仮承認

第十五回定例 九月十八日

議 題

- 一、後期会計監査の件
- 一、運動会実行委員会、印刷機の件

決 議

- 一、後期会計監査承認 杉田くるみ（二ノ七） 杉本孝司（二ノ七）

- 一、運動会実行委員会、印刷機承認

第十六回定例 九月二十八日

議 題

- 一、総会（九月二十八日）の一般議題の件
- 一、ソフト部の会計項目変更の件

決 議

- 一、一般議題としてクラブ設立及び廃止に関する規約案とスリツバ問題をとりあげる。

第二回定例 十月十三日

議 題

- 一、各部部会の件

決 議

- 一、十月二十一日に各部は部会を開き今後の方針について話しあう。

第三回定例 十月二十一日

議 題

- 一、文化祭に関する件

決 議

- 一、文化祭二日間実施とするようにする。

昭和三十九年度後期

第一回定例 十月六日

議 題

- 一、各部委員及び部長の選定
- 一、会長の会務予定質問の討論の件

臨 時 十月九日

議 題

- 一、スリツバ禁止の件

決 議

第四回定例 十月二十七日

議 題

- 一、各部部长より部会の報告
- 一、スリツバ禁止の件

決 議

- 一、スリツバ禁止について総会を開く（期日未定）



昭和39~40年度代表会議出席表

期	回数	学年 日組	I 年										II 年																						
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10													
前	4	5/19	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/							
	5	6/9	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o						
	6	6/10	o	o	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/						
	7	6/11	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o						
	8	6/16	/	o	o	/	o	o	/	o	o	/	o	o	/	o	o	/	o	o	/	o	o	/	o	o	/	o	o						
	9	6/18	o	o	o	/	o	o	/	o	o	/	o	o	/	o	o	/	o	o	/	o	o	/	o	o	/	o	o						
	10	6/20	/	o	/	o	o	/	o	o	/	o	o	/	o	o	/	o	o	/	o	o	/	o	o	/	o	o	/						
	11	6/28	o	o	o	/	o	o	/	o	o	/	o	o	/	o	o	/	o	o	/	o	o	/	o	o	/	o	o						
	12	6/30	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o					
	13	7/3	/	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o					
	14	9/8	o	o	o	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/						
	15	9/18	o	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/						
	16	9/28	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/						
	欠席日数			5	3	4	9	8	5	0	4	2	8	8	1	2	7	4	8	1	10	1	1	1	1	1	3	4	11	7	4	1	2	2	2

後	期	回数	学年 日組	I 年										II 年																							
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10														
1	10/6	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o			
臨時	10/9	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o		
2	10/13	o	o	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/		
3	10/21	/	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o		
4	10/27	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o		
5	11/8	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o		
6	11/11	/	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o		
7	11/17	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	
8	11/25	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	
臨時	11/26	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	
9	12/1	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	
臨時	12/4	/	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	
10	12/8	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	
11	1/14	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	
12	1/19	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o
13	2/2	o	o	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
14	2/10	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o
15	2/16	o	/	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o	o
欠席日数		3	1	2	0	1	4	4	2	1	1	2	3	1	6	8	5	4	8	2	2	0	9	4	15	4	10	13	1	9	8	7	8	7	9	7	
前後期計		8	4	6	9	4	9	2	5	3	5	11	2	8	15	9	12	4	12	8	1	10	7	19	15	17	17	2	11	10	9	9	9	9	7		

註(1) o印は出席、/印は欠席  
 (2) 前期の1回~8回は不明

第五回定例 十一月五日

議 題

- 一、スリッパ禁止の件
- 一、文化祭に関する件
- 一、能研テストに関する弁論大会の件

決 議

- 一、スリッパ禁止についての総会を十一月十三日に開く。
- 一、能研テスト弁論大会を十一月九日に講堂とする。

第六回定例 十一月十一日

議 題

- 一、コーラス大会の件
- 一、規約改正の件

第七回定例 十一月十七日

議 題

- 一、規約改正及び審議会の件

決 議

- 一、規約改正審議会を設立する。(大多数賛成) 審議会委員を以下のとおり決定する。
  - 一年(三名) 一ノ一黒瀬、一ノ七岩脇、一ノ八大角
  - 二年(三名) 二ノ六木下、二ノ九近藤、二ノ十赤司
  - 一年学年代表 一ノ六橋本、二年学年代表 二ノ九中道、

本部(二名) 二ノ二碩、二ノ五河野

第八回定例 十一月二十五日

議 題

- 一、規約改正の件

臨 時 十一月二十六日

議 題

- 一、規約改正の件

決 議

- 一、規約改正原案を承認(以下のとおり)
  - 第四章第九節(追加) 賛成二十四名
    - 書記補佐二名、会計補佐一名を置く。選出法は各々書記会計が普通会員より推薦する。
- 代表会議はこの任命権罷免権を有する。書記補佐、会計補佐は役員としての権限をもたない。任期は役員と等しくする。
- 第七章第三節(改正) 賛成二十五名
  - 総会は普通会員3/5以上の出席がなければ開くことができない。
- 第七章第五節(改正) 賛成二十三名
  - 総会の議長及び副議長は、代表会議で学級代表の互選により選出する。

第八章第九節(改正) 賛成二十五名

代表会議の議長は、総会の議長が兼ね、議長が支障のため執務不能の場合、総会の副議長が代つてその職務を行う。

第四章第三節(改正) 賛成二十五名

副会長は会長を補佐し会長不在又は止むを得ない支障のため執務不能の場合会長に代つてその職務を行なう。又クラブ連絡会議議長となる。

第十章第四節(改正) 賛成二十五名

会計部を除き各部は部員の互選により部長を選出する。会計部は役員の会計が之に当る。

第八章第二節(改正) 賛成二十三名

代表会議は各学級代表各学年代表(以上二つを議員という)役員各部部长で構成する。

第八章第三節(改正) 賛成二十一名

各議員は、それぞれ一票の決議権を持つ。

第十四章(改正) 賛成二十四名

本会則の改正は議員総数2/3以上の賛成で代表会議がこれを発議し、総会に提案して、その賛成を得なければならぬ。この承認には全会員の過半数を得なければならぬ。付則もこれに準ずる。

クラブに関する付則(改正) 賛成二十五名

第四条 クラブ設立のための付則を次に定める。

第一項 発起人は設立申請書(目的、加入者名顧問名を明示)をクラブ連絡会議長に提出する。

第二項 クラブ連絡会に於いて [ ] の2/3以上の承認を得たる後、研修クラブとして認可される。

第三項 研修クラブとして認可後六ヶ月間を研修期間とする。

第四項 研修期間はクラブ連絡会で検討して一般会計から予算を組む。

第五項 研修期間終了後、クラブ連絡会に於て正式クラブとしての可否を審議決定する。

第六項 正式クラブとして認可された場合二週間以内に部則を常任委員会に明示せねばならない。

第七項 正式クラブとして認可されなかつた場合はクラブ連絡会に於て事後処理を検討する。

第五条 クラブ廃止のための付則を次に定める。

第一項 クラブが自主的に解散するのは自由である。但し、その理由をクラブ連絡会、代表会議に報告しなければならぬ。

第二項 クラブ連絡会がクラブ解散の必要ありと認められた場合 [ ] の2/3以上の賛成で発議しこれを代表会議に提案し、その承認を得る。

第三項 クラブが解散に不服のある時は全会員1/20以上の署名によつてクラブ連絡会に再審議を要求で

きる。

第六条 クラブ連絡会はクラブを正式クラブとして認め  
がたい時、準クラブとして指定することがある。準ク  
ラブは正式クラブとしての権利を主張できない。

第八条

第一項 クラブ連絡会の決定事項は代表会議の承認を  
得たる後、有効なものとする。

第二項 クラブ解散の承認は代表会議に於ける出席議  
員2/3以上の賛成を必要とする。

第三項 クラブ連絡会の定足数は2/3とする。

第一条第二項は廃止する。(以下繰り上げる)

第九回定例 十二月一日

議 題

一、規約改正の件

臨 時 十二月四日

議 題

一、規約改正の件

決 議

一、十二月五日全校投票で規約改正の賛否をとる。

第十回定例 十二月八日

議 題

一、予餞会の件

一、規約改正の件

一、男女更衣室の電燈の件

決 議

一、予餞会実行委員を各部より一人づつ選出する。

一、規約改正Bグループ(書記会計補佐の項)Cグループ  
(総会定足数、規約改正)Eグループ(クラブの付則1  
一部除く)は本日より発効。

一、男女更衣室に電燈をつける申し込みを学校にする。

第十一回定例 一月十四日

議 題

一、書記補佐、会計補佐承認の件

一、三年学級代表の処理の件

一、予餞会の劇出演の件

一、運動部バツヂの件

決 議

一、書記補佐 二ノ三長井千枝、会計補佐 二ノ二新青明  
子承認

一、三年生が学校に来なくなつてからは、代表会議の定足  
数は一二年の学級代表の2/3とする。

一、予餞会の費用一人二百五十円を各学級の会計が集める。

第十二回定例 一月十九日

議 題

一、スプリングの件

一、予餞会の件

一、改正規約の文法的検討の件

一、ラグビーサッカーの大阪城グラウンドを借りる件

決 議

一、ラグビー部、サッカー部の校内大会中の大阪城グラ  
ンド使用を承認(二時間で二百円)

一、仮文化部長 一ノ一小林、仮厚生部長二ノ三田中

第十四回定例 二月十日

議 題

一、学年間クラス交流の件

一、スプリングの件

一、カバン吊りの件

第十五回定例 二月十六日

議 題

一、カバン吊りの件

一、食堂値上げの件

一、予餞会の報告の承認の件

一、運動部、ラグビー大会の報告

一、文化系クラブ交流の件

決 議

一、カバン吊りの件は四月まで延期する。

一、食堂値上げ実行委員会を厚生部で構成して資料を集め  
る。

一、予餞会の報告承認

第十三回定例 二月二日

議 題

一、予餞会の件

一、新規約にもとづく仮文化厚生部長承認の件

一、学年間クラス交流の件

一、ロングホームルームの見学会の件

一、スプリングの件

一、文化系クラブ交流の件

一、歌声ブオーケタンス

決 議

一、予餞会実行委員 二ノ九中道、一ノ六橋本、一ノ一黒

瀬、一ノ二南、一ノ四重見、一ノ五水田、一ノ六坂口、

一ノ八大角、一ノ九酒井、一ノ十金沢、二ノ十赤司



# Club 会

★生物 新館1階 体育館 ★バスケット ★バレー

プール ★水

★硬式テニス  
★軟式テニス ★バレーボール  
コート

+400年代教室+



給品部

★剣道  
★柔道  
★弓道

★映画研

3階 2階 1階  
★社研  
★音楽 ★演劇  
★ESS  
★放送  
★文芸

クラブ広場

中庭

本館

★卓球  
2階 美術室  
★美術

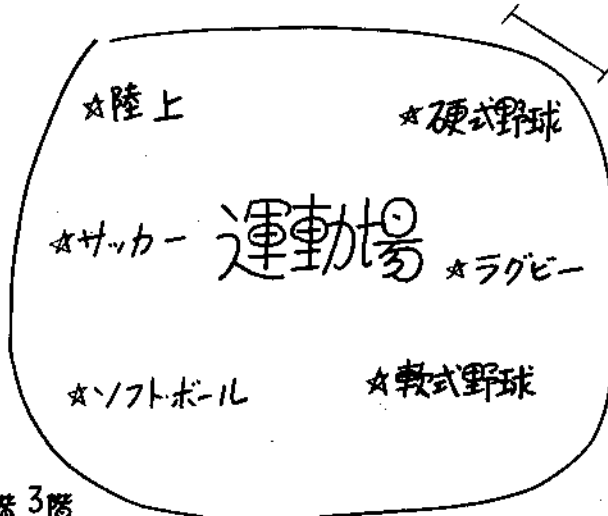
3階 ★地歴

# 一カイ



ボール

泳



物理室

★登山

★写真

化学室

★理研

書道室

★書道

1階 2階 3階

★新聞

★図書部

図書館

★弁論

Uick

このへえじから  
君の得ること

常に言われているとではあるが、まよ三年間の高校生活を通じてのクラブ活動の占める意識を熟考した上で、悔のない三年間を送れるように参考資料としてこのへえじを設けたわけだ。よくあることなのだが、クラブ入部を考へるとき、必ず勉強との両立の可否を考慮するであろう。たいていの場合、多くの者はしりぞみ、勉強一途に走る。大手前の新入生は特にそうだが、そうした臆病者のために、次の文章を送ろう。君たちの先輩がいかに対処し、各々のクラブ活動を楽しんでいかか。自分自身を思いきり試してみたいもの、勉強ノイローゼ気味のもの、そして真の高校生活を追求せんと欲するもの、クラブ活動に参加しようじやないか、君が優等生にならなくつても、そこらにゴロゴロしている青なりびよりたんがひきうけてくれるさ。月並な言葉だが、よく遊び、よく楽しもう。

文化系クラブ戸籍

クラブ名	現在部員数	練習日	部室 or 活動場所
生物	26	毎日自由 特に土曜	新館一階部室
音楽	91	火水木 3:40~4:40	クラブ長屋「部室」音楽教室
演劇	10	水 3:30~5:00 土 1:30~4:00	三階クラブ長屋内
E,S,S.	80	火・木 3:30~5:00 土 1:15~5:00	クラブ長屋で最もきれいな所 三階教室
地歴	60	週2回 5時まで	社会科研究室
社研	7	定期的には週2回	本館三階 音楽室奥 クラブ長屋 最奥部室
弁論	20	火・土放課後下校時まで	北東の職員便所横の階段を登りつめた所 一番景色がよい
新聞	26 (含8年)	毎週水曜 部会の予定 その他いろいろ	本館四階 北西端
書道	?	?	?
美術	?	?	?
文芸研	21	毎週月・木 放課後	本館一階南西階段の横
放送	11	毎日	教室なし 活動場所 教室及び家
放送	25	当番制 一人週1~2回 昼食及び放課後	放送室 (本館一階つきあたり 食堂向い 諸役備完)
写真	22	試験前一週間を除く毎日 放課後	暗室
理研	44 (含8年11名)	物理(火水土) 火水木 化学(火水土) P.M. 8:30~5:00 天文(水水土) 土 1:00~4:00	化学教室

文化系

「しゃけん」 社会科学研究所

社会科学研究所とはいったい何をするクラブなのだろうと、あなた方の大多数が疑問を持つだろう。一応それは社会科学研究所という名でその内容が明確に示されているようにみえる。しかし、社会科学というものが一体何を指すのか。その中には政治学あり、経済学あり、社会学、社会心理学その他、方法としての社会科学の分野は広い。またその社会科学は科学であると同時に、その前提としての思想を持つ。当然僕たちの研究分野には思想をも含めた広い意味での哲学というものも入る。またそれに加えて思想というものは、文学を除いては語れないために、文学も僕たちの分野に入る。もちろん、社会科学は、社会現象を分析、研究して総合するものだから現在の社会問題、時事問題も大きな比重を持つ。これらすべてを研究することはもちろん不可

能だ。にもかかわらず社研部はある。君たちは社研部が何をするのかまだ具体的なことは少しもわからないだろう。わからなくてもいいのだ。社研部はこうあるべきだ。というような模範的な活動はクラブとして文化祭に研究発表をするとき以外共通のテーマについて研究しなくてもよい。個人個人が自分の問題を持つているときそれについて研究するのは自由だ。それでは個人として社会科学を研究するのはクラブに入つて社会科学を研究するのは、どういふ違いがあるのか。これは私たちが活動するのには最も大きな問題だ。ここで私たちはクラブ内で対話というものを持つ。ここで私の対話はサロンのムードを持った雑談ではない。私たちは自己の進歩のために自分の思想、自己の内部を徹底的に他人（つまりクラブ員）と対決させて積極的に討論する。つまり他人と自分との積極的

な対話を通じて自己の発展を持つということを前提として君たちは自分の問題と取り組んでいくのだ。前にも言ったとおりその問題は何でもよい。(文学などにしても私たちは文化祭に児童文学を特集するような文芸部などより数段高いレベルにあると自認している。) 社研部全体としての思想などというものは無い。もしあつたとすればそれは対話を通じてたまたまみんなの思想が一致したという偶然的なものだ。社会科学というものを通じて何かを掴みとる。対話を通じて自己発展を求めよう。というのが、私たちのクラブの目的なのだ。当然研究活動も何か、問題がある限り毎日行なわれる。社会科学に興味を持つている人は誰でも入部して下さって結構です。いっしょに研究していきましょう。

具体的な活動についてつけ加えるなら、私たちの活動は年に四、六回出される機関紙によつて発表されます。

「カエル屋さん」→音楽部

本館三階のクラブ長屋の隅。それが我が愛する音楽部の部室だ。現在部員数八十〜九十名。一昨年の倍に増え、現在本校最大の大世帯。といつても部員間は親密だ。毎週火水木の放課後が練習日で、大合唱やレコードコンサートが主な活動。以前のコーラス一点張りから脱皮しつつある若々しい情熱あるクラブ。主な行事は、全日本学生音楽コンクールに、コーラスをする事。夏休みの数日やコンクール前に猛練習があるが、成績は最近余り良くない。数年前西日本三位の実力があつたのだが……。せめて今年位は入賞でもしたい。文化祭も主な行事だ。昨年の文化祭は二日だったので、野外演奏会、室内演奏会それに国民会館での午前午後の二ステージを持ち大活躍？だつた。また新趣向として合唱楽符展も開催された。新聞にも「終始文化祭をささえた」と大好評。「素晴らしいコーラス」とみんなに言われてニコニコ。大成

「何んでも屋さん」→演劇部

功の文化祭だつた。これらの他、春には自治会祭、冬には予餞会などの出演がある。割合楽しいポピュラーな歌曲を集めている。また大阪府連合音楽会に秋、出場する。昨年は臨時演奏会も多く、大阪府庁や日生球場やコーラス大会などで歌つた。今唯一の願いは秋か春に、音楽部だけの定期演奏会を開く事。こう書いてくると、行事が大変多いようだが、みんな無事に済ませた。また落ちついた練習が出来ないもだが、そこは要領。スカルツァーの大作や、日本の三大組曲「月光とピエロ」「春を訪ねて」「子供と笛」をやつた。夏休み前後は、楽符の読めない部員も徹底的に基礎訓練して、素晴らしいハーモニーを作り上げる。四ヶ月位かけて完成した曲が、美しい響きとなす時は本当に、幸福感が味わえられる。こんな時「音楽でいな」と理屈なしに感じる。この喜びが我がクラブの生命なのかもしれない。音楽を愛する全ての人の心であると思ふ……。

ない。春の自治会祭、秋の文化祭は演劇部員の実力の見せどころだ。その準備の為の本読みや立付けは和やかな雰囲気ときびしい指導（というほどでもない）で進められる。そして本番。一度出たら度胸がつくよ。人の前へ出て話すのも、あまりはさしくしないようになる。今、部員が少い。（演劇部の良さを知らない人が多いからだ。）諸君に入つてもらつて大いに活躍していただきたい。

たかるコジキやんけ、あんなん。」男の奴と女の奴がいちやいちゃしやつて見られてへんわ。」にやけた奴ばつかりや。」ヤメトケ、ヤメトケ。「だいたいどんな活動をやってますのん。」はつきりとは知らんけど、なんや部室では日本語しやべつたらアカンとか言ふとつたし、レコードやテープレコーダーなんか使つて発音練習しとるぞ。」このまえも、教室に忘れもん取りに行つたら、何や英語で話ししとおつてな、俺の方見て笑つてやがねん、何話しとつたんか知らんけど、LOVEとかLIKEとか言ふとつたな。」ハンティングで何です。」大阪城に行つてな、外人観光客に話しかけて行きよんねん、一べん連れていつてもろてんけど、あいつらばかり話してばつかしおつて、楽しそうに笑つた。こつちはテンブンカンブンで面白くないから帰つて来た。」

皆さん。この新入生は、それからどのクラブへ入つたと思ひますか？話はそのままで、皆さんは、この文章読んでいるうちに気づかれた事でしょうが、彼等の会話に用いられている言葉の奇快さ、標準語でもなし大阪弁でもなし、敬語を使つていられるでもなし、バケモノの日本語です。今から直そうと思つても十年くらいはかかるでしょう。バケモノの言葉を使う自分にイヤ気がさした人、至極最高の解決法をお教えいたしましょう。英語でしやべるので、敬語とかさういつた一さいのわずらわしいものない英語を。ええ、充分です。中学校までの知識で。明日からでもしやべれる様になるでしょう。君さえ努力すれば。いいですか正しい人からは、正しい言葉から、そして正しい英語をしやべるのは、大手前E.S.

「エツサツサ」→E.S.S.

四月上旬、桜の花が池の表をうずめる頃、中庭にて数人の新入生と先輩の対話……。

「E.S.S.で何ですのん。」「ああ、エエかつこしてアホな事ばつかし言うところのクラブや。」「意味も判らんと

「同じ学年の人でしょう。その連れて行つてもらつた人は？」「どうです

単語ばかりひねくりまわして外人に

行つてもらつた人は？」



Ⅲ 三階に住まいする人たちⅡ

### 「雑貨屋さん」の地歴部

○塔の研究

○新幹線と副都心

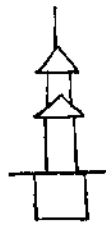
○大阪人と芸能

夏休み、奈良・京都・滋賀・和歌山の重要文化財・国宝級の塔を見学に行きました。中には国宝の塔の内部をくわしくみせてもらい、又五重塔の上層にまでのぼりました。たのしいことが一パイでした。又部屋をのぞけば多宝塔の模型が目につくでしょう。これは岐阜県の日蓮峰寺多宝塔です。地歴部最高の技術を投入して作られています。これも夏休みに一泊の予定で数名で見学にいったところです。

新幹線の方では、これも夏休み中に鳥飼基地見学、関西の学生で初めての試乗をしました。又運転席内部の機密装置もみだし、運転してる気分もあじわいました。又九月には新幹線の一般試乗に十数名参加し、新大阪―米原間試乗八ミリ撮影、スライド撮影等たのし

い一日でした。又文化祭には新大阪駅周辺の模型を作りました。文化祭当日には超特急試乗のさいの映写をし好評をばくしました。

大阪人と芸能についての研究では元大  
手前の先生である吉永先生に協力をお願し浄瑠璃の人形又各地の展示会で出品なされた資料等、すばらしいものばかりでした。文化祭には地歴部機関誌である「いにしへ」の自動販売の売れいきは上々数冊をあますのみ。(全部で五百部程)内容を充実し一年間の研究がそれを読めばすぐわかります。又去年初の試みとして一般募集による「飛鳥見学会」日本史学会のホープ小松素先生の流調な解説、おまけに日本史の期末考查には同じコースが試験にでるなど色々。又新聞部の調査によれば地歴部が最優秀、又我々クラブ員は「大手前といえば塔、塔といえば大手前」というふうに実跡を上げるべく努力しています。大手前に入つてクラブ活動をするには地歴部以外には見るべき



### 「ダベリ屋さん」の弁論部

新一年生のみなさん、御入学おめでとう。さて、私達弁論部はあなた方一年生に、より楽しい高校生活を送つて頂くために、弁論部の紹介をさせて頂きます。みなさんは弁論をどんなものだと思いますか。あの自由民権運動の盛んな頃の「一である」と云つて、机をドンとたたたくものだと思つていませんか。なるほど壇上で話すこともありますが、NHKの全国大会を見てもわかるように、相手に聞かせるのではなく聞いてもらうのです。又他に討論することから、言葉を発すること全てが弁論だと云えましょう。

言葉は人間が社会生活をしていく上

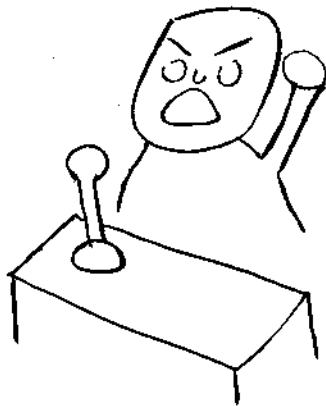
に必要な欠くべからざるものです。それは言葉を通じて、人と人との意志の疎通をはかるからです。しかし私達は言葉を通して、うまく自分の意志を伝えたいでしょうか。この間にYESと答えられる人は非常に少ないでしょう。私達弁論部員も、なかなか上手に自分の意志を伝えることが出来ませんが、少しでも上手に伝えられるように、日夜努力を重ねています。

あなた方は弁論の重要性については、もう十分にわかつておられるでしょう。実際は全ての人に、弁論に関心を持つて頂きたいのです。又持つて下さるのが当然だと思います。新しく入られたあなた方の目的は、この弁論部以外にも興味を引かれるクラブが映ずることでしょう。しかし、自分の意志を相手によく伝え、より充実した学校生活、社会生活を送るためにも、ひとつ弁論部へお入りになりませんか。一度入ると、とつても楽しくてなかなか出られないクラブです。

活動日は火・土曜日、活動内容は、他校の大会への出場、討論会、校内の立会演説会、読書会など多種多様です。部室は本校で一番景色のいいところ、つまり北東の職員便所横の階段を四階まで登りつめたところ。屋上からさしこむ日光は、あなた方一年生の楽しい三年間を約束し、優しいほほえみを投げかけることでしよう。

が、活動は不活発である。年五回の発行はなんとか保持しているが、それもとすれば遅れがちである。それ故、新一年生、新二年生に対し、絶大な期待が寄せられるのである。

新聞部は、学校新聞を発刊する機関であると共に、一つのクラブである、という点で他のクラブとは性質を異にしている。又、それだけやりがいのあるクラブなのだが、他から見ていると、どうもとつつきが悪いらしい。とつつき悪いことの一つの原因に、勉強時間が大きく奪われるということがある。現在の段階では多少自己の時間が犠牲になることもある。しかし、これは部員数の増加、活動の円滑化及び部員のやる気向上で解消しうることだと思ふ。それに、新聞部に限らず、クラブ活動で得る経験、知識、友人はその人にとつて非常なプラスになる。特に新聞部は、他校との交流も多く見聞を広める意味からも最高のクラブだと思ふ。イヤ、わかっているね。



### 「ゴシツプ屋さん」の新聞部

これは現在の大手前のほとんどの文系クラブに共通している事である

## 「とうふ屋さん」 書道部

現在部員数は一年生十三名二年生十四名の計二十七名です。練習は毎週月曜と水曜の放課後、三時半から五時迄(夏は五時半迄)本館二階の書道教室に於て行なわれます。部費は三方月百円で、半紙、手本、下敷、分鏡、硯等はクラブのものを使えます。筆だけは共有するわけにいかないので個人負担(ただし、条幅用の太い筆はクラブに有り)になつていきます。部員になりますと、活動日に源元先生からご親切な個人指導をして頂く事ができます。

字にはその人の人となりが見られる、と聞いていますが、実際、長い間練習しているところが実感されます。私達は書道によつてその人格を高める事ができるのは主にこの事によるのです。すなわち、短かい期間で言えば、私達が疲れている時、悩んでいる時には気持ちのよい字は書けませんし、長い期間で言えば、やはり人間が未熟のうちには未熟な字しか書けません。私達の一

年前の字と今の字では比較になりません。そこで私達は書道の深さを知り、謙虚な気持ちにもなり、努力する気にもなります。又字に対する感じ方も変わつて来ます。それ迄は下手な字だと思つていたものが案外よい字だつたり

上手だと思つていたものがないやな感じの字に見えてくる事がありません。それは主に字の芯あるいは骨格と言つてもいいですが、それをしつかりとらえてある字とそうでない字の区別ができるようになって来るからだと思います。氣宇壮大な字を見た時の気持ちのよさ、眞撃な字を見た時の打たれる感じは、字を練習したことのある者にしか味わえないものだと思います。

偉そうな事を書きましたが、どんなに下手な人も一年間練習した後はきつと以上のようなことを実感されるに違ひありません。字の上手な方は勿論ですが下手な方も、自分一人でそう決めてかからないで(実はそれは非常によい字かも知れません。)我がクラブ行く楽しいクラブである。

フアイトある人は美術部へ。

こころで一息……

詩の世界

都会の生活に疲れたお前よ

さあ飛び込んで来い

この世界に

豊かな太陽の光と

小さな虫けらの中に

生きる力と生の意識を

早く見つけにやつてこい

大きな自然の中で

小さな自己を

小さなしあわせの中で

大きな自分を

遠藤 宏

さあ、残り行こう

我クラブには変な伝統があつて、男子と女子が毎年交互に多くなることだ。でもみんなうまくいつている。又先輩達が「会」をつくつていて、私達とお寺や港にハイキング兼写生に

で真剣に練習してみて下さい。入部を歓迎します。

## 「アーチスト」 美術部

これから伸びるクラブ

何かしたくてうずうずしている人は、美術部へ。ビーナスの鼻をゆがんで描こうが片目を描こうが、おかまいなし。思いきり画布に力をはき出そう。従来の絵にこだわらず、自分の思いをそのまま描いていく。何と楽しいだろう。その中で最も楽しいのは、何といても花祭の時である。九月の高校展の後すぐに準備にとりかかる。皆、短期日で仕上げるのに必死だ。一年の始めは、こわごわ小さいキャンバスに描いていたのが、ドア一枚位の大きさのものを描いてゆく。描けば描く程、自分の表現したいのに比べて、画布の小ささを感じるだろう。前夜には先輩達が絵を持つて来て、手伝つて下さったり、トンチンカンと金儲やのこざりやの音に活気にあふれる。この額つけの時

## 「ア・ラ・カルト屋さん」 文芸部

追いつめられた人たち

心の奥底から大きな声でどなりたいような感情に襲われた時、力一杯泣きたい時、人にも喜んでもらいたい時、高校生としてのあるいは人間としての悩みにぶつかつた時、部員達は詩を書く歌を書く小説を書き、本を読み詩集を開く。部員は素直である。そして率直である。自らに起つた問題を避けようとして逃げたりしない。文学書や哲学書(といつてもくそむかしのはゴメンだ)があり友人があり何よりも大切な自己がある限りその問題を直視する。「桐文」や「新風」や「詩集」を開いてもらいたい。若さ故の素直故の、美しさ若さが何とあふれていることか。文芸活動は広範囲に渡っている。以上のような「創作」「読書」「創作の発表」以外に部員は各々好きな作家を研究し文学史も顧る。本年度の文化祭舞台行事での演劇「銀河鉄道の夜」でもわかるように部員の脚色演出出演に



よる劇もすれば展示における「児童文学の研究」といったものもある。各人の活動結果は月曜と木曜の放課後はき出される。原稿用紙を持つて集まってくることもあれば何も持たずに来る場合もある。作品の批評をしたり、最近

のさまざまな問題を論じあつたり、狭い部室は声と人でいつぱいである。文士劇もやりました。コーラスもやりました。なんでもやります……？

### 「つうけん」通信研究部(簿)

学校では免許のない人のためにアマチュア無線のすべてを教えます。送受信機の作り方からアンテナのはり方、YLをつかまえる方法(YLとは若い女の子)etc.

昨年あたりは太陽活動最低の年でだいぶ苦労したのですが今年からは太陽も日まじに活発になつてきたので、アメリカ・ヨーロッパあたりの近い所ならいつでも交信できます。毎日英語をしやべつていたら英語上達まちがいな

し。それに物理の時間でも電気の所にきたら夜にアマチュア無線で楽しんだ分だけゆつくり寝ることが出来ます。今部室がなくてこまつているのですが部室は家に帰つてから空中でするので

アンタ電気おきらい？ それはいけませんよ。テレビくらいなおせなくて現代人のはじですからね。通研にすれば鉱石ラジオの作り方から手を取り足を取りおしえます(YLかんげい)テレビなんて鉱石ラジオをちよつと複雑にしただけのものなんですからね。われわれ通研部員は電気にはそりやもろ強いので一〇〇Vくらいならヘイキノヘイザ。鉱石ラジオなら三秒半、五球スーパードーナツ三分で作つてみせます。今、クラブ申請中なのでもうすぐコールがきます。そしたら自分の無線局をもつていなくてもアマチュア無線が楽しめるつてわけです。又、コールがおりたならば、さつそくアメリカのハイスクールのクラブ局と友情を厚

くして通研部そろつてアメリカへというような計画もあります。むこうの屋はこつちの夜、こつちの屋はむこうの夜というわけで、おまけに学校という所は時間に縛られますのでなかなかうまくいかないのじやないだろうかと思つて心配しています。けれども、アマチュア無線をやりたい人、電気好きな人及びきらいな人、一〇〇Vさわつて死んでしまつた人、鉱石ラジオを作るのに四秒以上かかる人、アメリカへ行きたい人、それに女の人はぜひ通信研究部にはいつて下さい。

### 「コンサート屋さん」放送部

放送とは、総合芸術である。と、私達は考えています。何故かつて、それは番組を見てもらえはすぐわかること。通常活動として昼食時、放課後に、名作を訪ねて。名曲の旅。校内散歩。クラブ訪問などがあり、特別活動として、自治会祭、文化祭の放送関係の仕事の分担、頼まれれば、体育祭まで

手伝うというクラブである。そのために、文学、音楽、発音、対話、物理、技術等がからみあつて一つの番組を作るからである。もう一つ、大きな仕事は、金蘭会館三階に於ける週二階のレコードコンサートである。概観的なものはやめ、実際に何をやつているか話そう。通常番組のために放送時間の三、四倍の時間をかけて企画する。つまり、出演者、音楽等を決め、番組の内容について相談する。これが行なわれていたのは一学期間だけだつた。では二期からは何をしていたか。学校行事の為に通常活動が出来なかつたこと、器具の故障である。故障しても直しに出す予算なんていうものはないからで、部員がポケットマネーをはたき出して器具を買い、何日も何日もかかつて修理するのである。やつと落ち着き初めた頃には十二月。テスト等でよく年になつてしまえば、部員が一年生だけに

なるという困つた状態だつたからです。しかし今年入部する部員のために、今

番組の充実より器具の整備に追われています。先輩達の暖かい援助と、部員同志の結束これが放送部です。放送設備が学校のものとは別であるというのも大手前高校ならではの不思議さなら、スタジオのない放送部室も奇妙な存在です。新一年生の皆さん、何かを高校生活で得るとしたら、それこそ放送活動以外にはありません。私達、放送部員の期待を背負つて立つていく気力のある新一年生の部員を、私達は今求めています。入部希望者は、中庭に臨み、食堂と最短距離にある部室へおいで下さい。

### 「のぼし屋さん」写真部

写真はこのように無限の可能性を秘めているものですが、写真部では、次々とするような活動を行なつていきます。暗室の使用つての、現像、焼き付け、引き伸しの練習。撮影会。校内写真展覧会。その他。ではもう少し詳細に説明しましょう。

最近では、殆んどどの家庭に、カメラが普及しています。きつと皆さんの家庭にもあることでしょう。しかし、カメラを使うのは旅行するときや、入学記念等の記念撮影だけ、これでは、せっかくのカメラを無駄使いしていることになりま

す。暗室では、フィルム現像、焼き付け、引き伸しの練習を、任意の日に行います。ただ一度に、二、三人しか使用できないので調整しながら行なつていきます。実際に自分でやつてみると、特殊写真なども作れます。また写真屋で扱つてくれない程度の悪いネガからでも、調子の整つた写真を作ることでもできます。なお特筆すべきは、現像代が格安になることです。部費を納めても、なお安上りになります。

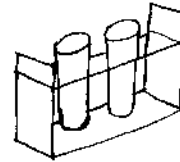
撮影会は、年に二回、春夏に部員の

「リッケン」理科学研究部

す。

親睦、ハイキングを兼ねてでかれます。展覧会も通常年に二回開きます。自治会祭と文化祭のときですが、後者に力を注ぎます。主品するのは、撮影会の作品や、体育祭時のスナップ、その他自分の気に入りの写真なども出品しています。その他批評会なども行ないます。

このように、写真部は、写真を理解、研究するために活動していますが、おもしろいことに、物理の「光」ところにくると、全員張りきつて成績の方も……と言ふ事があります。唯一の欠点は、部室がないことですが、今年からは、部員獲得に全力を尽くそうと決心しております。



めて日度に進歩しています。米ソの宇宙開発は目をみはるものがありますし、又物理学、化学、天文気象学も我々の生活に密接に結びつき、より高度の法則性をもとめて前進しています。日本においても、今やロケット開発を進めエレクトロニクスを進歩させ高分子化学を發展させています。このような現代において、科学の進歩を助け科学の發展をになつていくことは我々若人にとって特権であり義務であります。我が大手前高校理化研究部は我々の「科学する心」を養い我々に「科学とは何か」を考えさせてくれる場なので

我々のクラブは現在物理、化学、天文、気象と班に分かれて活動していますが、単なる班の集合にとどまらず各班の研究を交換しあい、科学する心を育てることを共通の目標として進んでいます。昨年より追手門高校とのクラブ交換もなり、又復活した屋上ドームでの天体観測も進めています。重力加速度「g」の測定、反撥係数、振動の合成の実験・合成繊維の実験・人工香料、ケミカルガーデンの実験や屋内CO<sub>2</sub>測定・太陽黒点観測等、又各班に応じた各種器具の製作、面白い所ではマジックハンドや世界の天文台の模型の製作等色々な活動をしています。科学に興味を持ち自分で科学することに楽しみを感じ又喜びを感じています。しかしいかなる研究も地道な努力なしでは成功しません。我々は我々自身の手で科学をつかみ、科学を味わおうではありませんか。

### 「かいぼう屋さん」

生物部

(解剖のこと)、プランクトンの研究

生命現象の複雑さは、今さらいってもないでしょう。そして、この生命の神秘にとり組みたいという気持は、人間誰しも持つものと思います。わが生物クラブが、この気持を必ずしも満足させるとは思いませんが、生物へのアプローチの第一段階であることに、間違いありません。

（解剖のこと）、プランクトンの研究は新一年生の入部によつて、ますますふえることでしょう。尚、これらの活動の成果を年に一・二回、生物部機関紙として発表します。真の生物研究の態度は、生物の教科書への服従によつては得られず、高校生活においては、クラブ活動にのみ求められます。さあ、生物を愛する諸君、生物クラブへ入りましょう。

それは現在の生物クラブの活動状況を紹介します。我々の活動方針は、使用材料、実験方法ともに、各自の意志にもとずくというものであります。このように活動を自由なものとして、その内容は非常に種々なものとなつています。(この点において、生物クラブは、必ずやあなたに満足のいく材料を与えてくれるでしょう。)

伝統の空中細菌固定、ウニ及びカエルによる発生実験、ブラナリアによる再生実験、シヨウジョウバエによる遺伝及び生理実験、カエルの形態学的研究



御苦労さんでした。

### 「おことわり」

編集委員から

本来ならこの後運動系クラブの紹介文が連なるわけなんだが、なにごぶん運動系という性質上、「百聞は一見にしかず。」そのものであり、せつかくの名文を読んでみたところで実体ごとぶつつけてみなければ本当の良さは知り得ないと思う。まあそういうことでここには勧誘文はのせず、一人の先輩の体験談をもつて、いかに先輩達が困難だと言われる運動クラブの生活を、スクールライフにマツチさせ日々を有意義に送ってきたかをお教えしよう。それをもつて運動系クラブへの誘いとしよう。

運動系クラブ戸籍

クラブ名	現在部員数	練習日	場所
柔道	20人	月・火・木・土	道場
軟式テニス	27	毎日	テニスコート
硬式 "	25	"	"
軟式野球	24	奇数日	本校運動場
硬式 "	10	日曜を除く毎日	"
卓球	85	月・火・水・木・土	講堂前
男子ソフトボール	15	偶数日	運動場東側
女子バスケボール	26	月・水・金・土	体育館
女子バレーボール	22	月・火・木・土	月運動場 火木体育館上 } 運動場 体育館
ラグビー	16	日曜を除く毎日	運動場
登山	52	火・木・土	物理教室
水泳	13	月～木	夏期・プール、冬期・大阪城公園
陸上競技部	21	金・日曜を除く毎日	運動場 or 大阪城
ダンス	8	火	道場
剣道	17	月・水・木・土	道場 or 修道館

「クラブと私」 三年 寺西浩子

☆大手前の魔女☆

高校入学以来もう二年足らずの月日が過ぎ去りました。長いようで短かかった二年間。短いようで長かつた二年間。この二年間の私の生活を大きく占めていたものといえややはりクラブ活動であつたらう。クラブに入る理由と云うのは人それぞれがうでしよう。あの運動がしたい、体を丈夫にするため、一つの趣味を通して友達がほしいから、その他：：というふうだ。私の場合中学時代から少しこの運動をつづけて来たので好きだつたからというのは勿論だが、やはり第一の理由としては友達をほしかつたからといえるだろう。中学時代の仲の良い友達とは散り散りバラバラになり、胸に希望こそあれ大きな不安につつまれて学校へ通つていた入学当時、すぐに友達はいないし、一つの趣味を通して仲の良い友達を得ようとクラブに入りました。

運動場の主

入つた頃は練習もきつくなく、二年生の人もたくさんおられたので体は疲れなかつたし、あちらこちら珍らしい事ばかりであつたというまに二ヶ月が過ぎました。その間仲の良い子もできずただ練習を黙々として来ました。でも二年生も少しづつやめて数名が残り、一年生もたくさん入つたが本場に続けようという人だけが残つた時、今でもとつても仲の良い何ものにも変え難い十人もの友達ができました。そして私に最も親切な最も重要な最も愛すべき友達もできました。彼女とは外見、特に顔や体つきは反対、考えることも好きなタイプまで正反対でした。でもどちらもほかからか屈託のない性格や家庭の環境がよく似ていたのですぐに仲良くなりました。今では彼女には何でも話します。うれしいことも悲しいことも苦しいことも。そうすれば本当に喜びは倍に、悲しみは半分になりました。だから一日会わないと、何だか何年も会わなかつたようでとつても淋し

いです。女性間の友情は成立し得ないといわれています。高校時代は親友のようふるまつていても高校を卒業し社会に出、結婚をしてしまえばそれきりになる場合が多いといふのです。本場に女性間の友情は成立し得ないでしょうか。私は今はそんな事は決してないと思つています。私は彼女を失うような事はないでしょう。話はもとにもどつてその頃から練習日もきちんとなつて休むことを許されず練習量も多くなつて来ました。それに並行して学校の勉強量も多くなり、中学時代からあまり勉強をしなかつた私にとつて大変つらい毎日がやつて来ました。六時限目が終るとすぐクラブに行き、五時まで練習、家へ帰ると夕食、体はくたくたで机の前に坐つても机の上でうたた寝：：。そればかりを繰り返して来ました。父や母は私の体の弱いのを心配してクラブをやめるやめるといいました。でも私はその時はもうクラブの一員と

してばつちりみんなと結ばれていてクラブをやめようなんて夢にも考えませんでした。その頃の部員はたしか三年が二人、二年生が四人、一年生が十四・五人だつたと思います。三年生も引退してこれで地を固めなくてはならないという夏休みにはみんなバケツに水をくんで顔を洗い、頭を冷やしてまっ黒になるまで練習しました。私は少し練習をさぼつたりしましたが、クラブがあるから学校へ行くのだと思うぐらいクラブに行くのがとつても楽しみでした。私達のクラブに入つてくるものはみんな家から反対されて来ました。一度や二度のみならず毎日更衣室で誰かが「家でやめろつていつていつていつていつて言ました。でもみんな頑張って練習をして来ました。でもやはり女子という身だからか、私にとつてクラブと勉強の両立は不可能に近いくらいつらいことでした。クラブを一生懸命すると勉強は全然お留守になる。勉強

# 三つの楽しみ

— 先生方「人世三つの楽しみ」とは？ —

をしようと思つてクラブができなくなつて来たようです。でもその成果も実り二年生になつた時は誰にも決して引き裂くことのできない立派なチームワークを持つクラブが出来ました。本当にまとまりすぎてこわいぐらいでした。みんなニツクネームで呼びあいどんなささいな心配ごとでもクラブ員みんなに相談しました。私のとつてもうれしかつたのは、やはり初めて試合に勝つた事でした。初めて出た試合で弱い弱いつていわれていた私達のチームが勝つた時はおもわず涙が出て来ました。「泣いたりして馬鹿ね。」つていつていたけれどもみんな目に涙をためていました。やはりみんなうれしかつたのでしよう。二年生になるとキヤプテンを中心としてあつて、こうしようとして色々みんなで知恵を持ちよつて少しでも上手に、少しでも強くなるように努力しました。二年生こそ私個人の面でも絶対にクラブと勉強の両立をしよ

と決心しました。部別で上へ上がるためにみんな一つになつて自分たちの技術の未熟さを痛感しながら練習しました。テストの前の日を犠牲にしてまでクラブに熱中したのに試合の日三勝一敗、勝ちセツト一セツトの差で優勝できなかつたのです。くやしいやら情ないやら一度に力が抜けてやし涙がじんできて来ました。でも負けた時はとても惜げなくて何もする気がしなかつたけれども今まで自分たちのして来たことは無駄だつたとは誰も思いませんでした。今度は負けたけれども次の時はきつと勝つぞ、きつとやるぞと返つてフアイトがあふれて来ました。でも他の友達の負けたことをたねにからかつたり、うちのクラブは弱いなどと言ふのを聞いてとつても情けなかつた。人の努力を少しもかおろとしないで結果のみをぶらさげて人をからかう。クラブにも入つていないくせにクラブの味やクラブの意義も知らないで大きな口をきかないでつていいいわ。

今は他のことに気をとられてクラブに熱中してはいない私だが少しクラブから離れるとやはり大事なものをなくしたようでもつても淋しい。私の学校生活の1/5といえ精神的には1/10以下で、少いであらうクラブを私は無駄だつたとは少しも感じていない。私の生活が明るくまなざしなコンプレックスに悩まされることなく高校生活を続けてこられたのもクラブあつてのことだろう。私達は今、春の試合を目標に練習をしています。クラブには私の夢がある。希望がある。クラブは私を抱擁してくれる力がある。クラブに入つて悩んでいる人、そんな人は多いに悩みなさい。悩んでこそ真のクラブの意義を見つかることができるのです。クラブに入ろうかどうしようか悩んで思つている人。ものは試し。一度クラブに入つてもまれて見なさい。きっとそこから何かがかかると思います。私はこれからも続けられる限りクラブをし、自分の人格を高めていくように努力するつもりです。

## 綿谷 芳夫

保健体育

### 一、第一、エツセン

健康であるので、三度の食事が何よりたのしみである。どんな日でも、食卓に何を出されても必ず一日に最小限三回のたのしみがある……楽しい：人生にもこんなに楽しみがあるから楽しいですよ。

### 一、第二、スポーツ

子供を連れて暇をみては春は野に、夏は海に、秋は山に、冬は雪や氷に、腹をへらせて食事する時のうまさ、子供を鍛練する時の楽しさ、いやな季節のない年がら年中、楽しみを見出せるのもスポーツマンの特権です。

### 一、第三、川柳

若い時から身体の練成にのみ専念してきたが精神的な鍛練には事欠いていたのがこの年輩になつて自然と心の奥から短らざるをおぎないたい気が湧いてきて文字通り五十からの学習をは

じめた楽しみの一つに川柳がある。昨年正月頃から独習ではじめている。大阪新聞に投稿してその評価を受けている。掲載された時の嬉しさ、これも私の人生の楽しみの一つである。

## 岡 省 三

国語

難かしい題である。そもそも楽しみとは何だろうと考え出すと判らなくなる。同じ生まれ来て来たんだから、楽しまなきや損だという考え方が現今は一般的なようだが、此の世に絶対的な楽しみなんてある筈のものでもあるまい。「楽」の概念も「苦」と対立させることによつてより明確となる。ほとんどの楽しみも、苦しみを挙げた方が把握しやすいのかも知れない。

ともあれ、ほとんどの楽しみを三つの場面にわけて考えてみよう。その一は教師としての楽しみ。その二は家庭人としての楽しみ。そしてその三は私個人

としての楽しみである。

さて、どういうことになるだろうか。一、教師としての楽しみ

最も教師らしい仕事はと言えば、やはり、それは授業であろう。その授業が楽しみかと聞かれると、どうも首をひねらざるを得ない。確かに楽しい時もある。が、気の重いことも多い。授業のことはともかくとして、最も楽しみを覚えるのは、生徒や卒業生諸君が、個人的にちかかにその若さをぶつけてくる時である。談たまたま国家社会から教育の問題に及ぶ時、思わず時を忘れ、年令の差を忘れて話しこんでしまふ。これがほくの楽しみの一つである。何だか新たな命が芽生えてくるような力強さを覚える。

二、家庭人としての楽しみ  
家庭人としては、ぼくは一家の主である。と言つても、まだ妻と二人きりだけだ。この結婚生活というものが又一大事業なのである。そもそも生きること自体が大事業だけれど、世の中

の人々は、よく平然と家庭生活を営んでらつしやるなど感心する位、家庭人としては四苦八苦の連続である。

その苦しみの中で、唯一の楽しみとは何だろうか。ぼくにとつては、それは妻との語りである。誰だつたか、外国の有名な人の言葉に、「夫婦生活とは長い間の対話である。」とか言うのがあつたように思うが、まさしく一面の真理をついていると思う。その対話を苦いものにするも楽しいものにするも夫婦の心がけ次第というわけか。二人の対話の間に、今迄の自分には表われなかつた新しいものが生まれ出て来る。それが楽しい。

三、個人的な楽しみ  
孤独の楽しみと言つた方が良いかも知れない。誰からも制約されないひそやかな楽しみ。それは、自分なりに問題を設定し、自分なりにそれを解決して行くことである。丁度、幼児が、積木に夢中になるのにも似ている。そうして得た考えを、原稿用紙に写して

しき故に)

### 中塚 五郎

化学

一、阪神の勝つた試合をテレビでゆつくり見ながら、ビールをのむこと。  
昨年の阪神―大洋、最後の四連戦のようなゲームだつたら云うことはありません。

二、史実七割ぐらいの歴史読物(小説ノンフィクションを問わず)に、自分の空想を三割ほど混ぜながら読むこと。好きな時代は、古代のオリエント諸国の興亡。三國志、日本の古代から壬申の乱まで、源平、南北朝などです。

三、道路工事などの土木工事現場を見歩くこと。  
特に日曜日の大阪港附近の建設工事現場など人影が見えず、荒涼とした感じと、未来への夢が交錯していつ何時間もあきません。

### 附記

新一年生に対する先生紹介のため企画したので、三学期末という先生方にとつてもつともいそがしい時期だつたので、若干の先生方にお願ひ出来たのみでした。新一年生の諸君におわびするとともにいそがしい時間をさいて書いて下さつた先生方に深く感謝します。

みる。原稿用紙のマス目を一字一字埋めて行く。こうして成つた文章が、人の借り物でなく、自分自身を明確に表現し得た時、ぼくは飛び立つような嬉しさを感ずる。大げさに言えば、創造するものの楽しみである。以上三つの楽しみのうち、どれか一つに溺れて、少しでもバランスが崩れると、途端に生活が苦しくなるから妙だ。此処でも調和の必要なることが痛感される。「寛容と調和」とか言う言葉をどこやらの偉い人が言つてたようにも思うが。

### 宮崎 重利

社会科(地理)

一、卒業生の諸君と談論風発の時(放言僻の發揮)  
一、坐して天下を知ること。(交通難の時に地理学徒迄がうるうる動き廻るのはどうも?)  
一、機械いじり(一切の妥協の無い厳

### 校内行事案内

自治会紹介 絶対に出席するべし。  
於講堂。  
クラブ紹介 読んで字の如し。於講堂。  
校外教授 春はクラス単独行。秋は学年そろつて。

自治会祭 日が暮れてからファイア―  
一たいて仮装行列。於学校亦は大阪城。  
北野交歓 北野の奴(?)らとバレーボールその他陸上競技の対抗試合。  
水泳訓練 プールで三日。須磨へ二日(遠泳)。アアシンド。  
登山・臨海・スキー 希望者のみ。  
水泳大会 夏の成果をこの一日に。  
対夕陽定期 ラグビー部とサッカー部戦 (80ページへつづく)

### 短歌

明崎久花子

これぐらい君もできると励まされ  
虫鳴く夜更け 数学を解く

徹夜して受験勉強の弟の  
横顔白く 問題を読む

朝まだき小暗き道をひとり行く  
柿の実しづか色つきにけり

学 習

——もう卒業です。でも

私の三年間は……………。

(旧三年) 大 藪 浩

先日、ある女性と話をしていると、ちよつとした拍子に彼女は僕にこう尋ねました。「あなたはイギリスのエリート教育(その時彼女がどう言つたか僕はおぼえていないのですが)をどう思いますか?」「エリート教育とは?」「それは、例えば冬にねて朝起きたら毛布の上に雪が積つていたり、スポーツでいえばラグビーばかりで、人間を徹底的に鍛えるのです。イギリスの大臣などはほとんどこの教育を経て誕生するのです。また私のすきなのは大松監督、彼は言つてゐるんです。『出来ないことをやる。』私は尊敬します。』僕はその時、全く直感的に、彼女の意見に反対したく思つた。いや反対しな

ければならないと思つたのです。何故なら、その時僕の心の中にあつたものは愚劣なものに對してむらむらと起る怒りと同様なものであつたから。僕はめんどくさそうにこう言いました。「それでも教育だるか? (これはもちろん反語であります。)」それに、それだけの教育(訓練と言つた方がふさわしい様ですが)をやつてゐるのにイギリスにはたいした奴はいないね。一それからまだ後で言つたと思ひますが憶えていません。が、ともかく先の答と同じように的はずれな答をしたことだけが印象にあります。この様な時、僕の頭はあまりに急激に回転し、全く的はずれな答をします。もちろん僕の答

は重大な意味、思想を含んでいますが、大抵の人には理解せよと言ふのが無理です。(理解出来る人もいますが)そしてこのくせは僕の大きな欠点の一つであります。特に人を説得させなければならぬ時には。一ところで、僕は彼女の思想の中に言ふなれば一万年程前、いや人間の発生からの思想(しかしそれは弱い人間の頭の中にしぶとく生きてきたものですが)を見出しただけです。それはいわゆる精神力なるものに對する崇拜であります。しかもそれは極力の前にうすくまり、権力の足の裏をなめている、ちつばけな精神力なのです。そして、いわゆる精神力なるものは「疑惑、恐怖、驕慢(おごつて人をあなどること)、欲望」(もつともこれらは芥川に言わせると感受性と理知の異名だと言ふことだが)をおさえつけるだけのものなのです。さてこのいわゆる精神力なるものを現在の教育は我々に要求するのであります。試みに君達のまわりのいわゆる優等生

をながめてみたまへ。彼は欲望(その中には知識欲も含みますが)をすて、自分のやつてゐる馬鹿げた行為に對し何ら疑惑したり恐怖することなく、ただひたすらに学習するのであります。(もちろんこの学習は生物学で言う動物に對して行なわせる学習であります。ここで歴史を例にとつてみましょう。現在君達が歴史を勉強する際、君達の最たる関心事は何年に何が起つたかと言うことです。(これは君たちのノートを開けてみれば解るでしょう。)言わば君達は年表を一生けんめい頭の中に押し込んでゐるのであります。しかもより悲劇的なことには、君たちの中の多くはそれらの年表を頭に入れてもそれが単なるアクセサリーの教養にしかならないことを知つてゐるのです。彼等は現在の教育が要求するから学習するのであります。これが君達の受けている、あるいは受けようとする教育なのであります。僕は思うのであります。我々が手に入れた知識(例えば

歴史の)は常に我々を助けてくれるようなものです。こんな場合我々はいかなる態度でいかなる事をやらねばならないかとか、他人を評価する時とか社会の出来事を見る場合とか一これらの時にいつでも我々を助けてくれる、言わば「生きた知識」なのであります。しかし悲しいかな、僕はこの様な知識をほとんど学校の授業の中や先生から教えてもらうことがほとんどなかつたのです。(もつと明確に言えば全くなかつたのであります。僕は青春の中の貴重な時間を空費したのであります。そしてそれは絶対に帰つてこない時間でありました。僕は今、非常に残念な気持ちでこの文を書いていきます。しかし君達の中の多くの破廉恥漢はこの僕のなげきを単なるたわごととして読み流しているでしょう。(もちろん僕はこのなげきが単なるたわごとであることを否定しませんが)しかし君達の中の良心をある程度でもよび起こしてもしたから幸いに思います。

私は道を歩く時

私は道を歩く時

まず一步ふみ出そうと思ひます。

ためらわずに

迷わずに

それから半歩さがらうと思ひます。

ふり返りながら

考えながら

時々走ります

回れ右して

ゆつくり歩きます。

そんなまどろっこしい事なせするん

でしよう。

そう、私は慎重になりきれない

から、

さりとて軽卒にもなりきれない

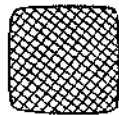
から、

私は私の半分にしかならなくつても

いいんです。

私は安心がほしいんです。

日向夕子



三年 斎藤雄久

僕である君から

僕である僕への手紙

僕である僕は校則に反する或行為をして学校当局より或処罰を受けた折……。

「元氣ですか。先日、君の今度の事を或処から聴いたんだがね。何んだか僕自身がやつて来た生活を思い出させる様な事を懐しい思いで傾聴して来ました。つまりぬ事、そう言ったら失礼かもしれないが瞬時の快感のためにこれ又つまりらぬ結果を導いた様ですね。

僕の体験談なぞ今更話す気にもなれませんが、敢て君に説経めいた、忠告めいたもの言ひ方をすれば、そんな事をしてもらえれば何物をも生み出さないという事です。ごく微妙な物は生み出します。君の行為に小心な教師達は、或いは慌てふためき、或いは苦い顔を、或いは同情を寄せ、或いは理解あると称する者は快い顔を……。しかし君はその時演じた事は全くの茶番であつたという事に気づきませんでしたか。僕は其様に教師が色んな風に動くのを始めは憤っていました。次に面白く思ひながら好奇の目で見ていました。そして自分のやつた事が最早自分から遠い所で誰も無関係な処で色んな役を演じているのを僕は観客の様に見ていました。更にそれに対する反省という何んとも僕にとつて全く珍奇な作業を強いられました。僕はそこへは狡猾になる事を知っていました。処は狡猾になる事を知っていました。よそよそしくも反省そのものをつち上げ、その自分を全く無関係なものにしないで済ませようという事です。更に

### 或共産主義者の話

君等は、恐らく実存主義についての読書会等も持ったと思うから言うのです。が、サルトルの「出口なし」という戯曲、更に「自由への道」や「存在と無」等でも述べられているように、他者の問題「地獄とは他人の事だ」という実感が今の君に身を持つて分かつたのではないのか。もしそれを感じたのなら今度のゴタゴタで極めて大きな収穫を得たといつてもいいと思う。今の君は考える事を放棄する権利が与えられている。受験という名のもとに。しかし其時期は極めて重要な時期だ。つまり、受験に対する君等の考えから形式的に反撥する様な事はもう陳腐な事だし、そんな物は受験期が過ぎればどうでもいい事になるのだから。今、君にとつて大切な事はむしろ受験に没頭する事ではないだろうか。これは君にとつては妥協、或いはなまぬるいと思らるだろう。そうではない。民青の諸君の様に大学へ行く事を社会変革の一つ

だなどという的はずれな事を言う気にもなれない。つまり僕の言いたいのは大学へ行く事が名譽を、安楽を、真理を、或いは社会変革を、或いは行く事そのものを目的としている場合、君はその化身となつてつまり描象体となる事。それは実に君にとつて貴重な事と思う。今までは君自身の価値体系に従つて行動して来た。しかしその価値体系すら不完全なる事、不確実なる事を君は認めるだろう。だとするならば今の君は社会の価値体系に従つて生きる事を僕は敢えて言う。ガラガラと君の内部の物が崩れかかっている時、そんな物を二度と起き上がらないほど崩さなきゃならないと思う。崩れる物は本質的に崩れる事になつていくのだ。そんな腐敗した物にしがみついていた自身を見返す機会だろうと思う。色々とつまらぬ事をしやべつたが、頑張つてやつてくれ給え。

一九六五・一・八

さようなら」

今日はひとつ現在非常に盛んになって来た学生運動と共産主義について敢て一言述べさせていただきます。単刀直入に話しに入る前にちよつとここで、一見関係の無さそうな例を取り出したく思います。サルトルが彼の友人と二人でフランスのモンマルトル界隈を散策している時の事です。或カプエの前まで来た時そこで頭髮を女の様に長くのばした多数の若者達が細いズボンをびつちりとはき、ジャズに合わせて身をくねらせながら踊っているのに遭遇しました。彼の友人が「彼等は自称、実存主義者、だそうです。」とサルトルに言いました。サルトルは驚いた様に「実存主義者だつて、彼等は僕の著作を

一行だつて読んではいないのだ。」と言つた事がありました。

先にこの例が関係無きそんな事と私は言いました。しかしこれに類似した事が今の我國の共産主義運動とやらをやつてゐる若者達に見出されるのではないかと疑問を持ちたくなるのです。私はよく学生達がデモで声をからしながら旗をふつてゐるのを見かけます。が、はたして彼等の内の何パーセントが真に困難な資本論を読み、又理解してゐるのかという事です。それどころか彼等の内に内在する物は唯のつまらぬ反抗心や、又よく他に見かけられる動物的行動の変化した物だとすら目に映るのがしばしばなのです。ここに再び二つの例を持ち出したのです。芸術方面に疎い私は恥かしい事ながら其人の名前もちゃんと知らないのですが、確か藤田某氏という方と記憶しており、氏は有名な画家であり、戦争中、日本に勝たしたいという純粋な愛国心から敢て戦氣昂揚のために戦争画を沢

山かかれました。しかしながら日本が世界大戦に敗北した後、多くの人達が

氏を、やれ戦争に協力したの、やれ軍に協力したのと陰口を、或いは公然と悪口をたたき様になりました。其様な事に憤慨した氏は、「こんな腐つた精神の奴がいる日本にもう未練は無い。」と一言言い捨ててさつさとフランスへ行きフランスの国籍さえも持ち、日本からの再三の帰国要請にも耳を貸しませんでした。次の例はドイツの有名なトーマス・マンであります。大戦中、ナチス・ドイツが鉄十字のもとに戦争に明け暮れている時、彼はドイツを捨てて南米へ逃げました。勿論、ドイツ政府もこれを大いに残念がりました。ところが、戦争が終りあの輝かしい歴史を持つたドイツが憤然たる敗北をし、荒廃した虚虚と化した時、祖国ドイツの復興のため、いち早く駆け参じたのも実にトーマス・マンであったのです。南米での豊かな生活を放棄して。

勿論、共産主義者の私から観れば例に出した人々の行為の一部に色々な疑問を持つ事はありますが、そんな野暮な事よりも、彼等程の愛国の精神に燃え

たつた人が今の学生運動をしておられる人の中にどれだけいらっしゃるか。マル(学生マルキシズム)の様なハシカ的思想がぶれなければ、私は共産主義者ですが、敢てそんな人達は遠慮願ひたいと言ひたいのです。お互いのためにも。共産主義者の中には狡猾な人もいて、其人達は「なあに、彼等の浅薄さ加減は周知の通りさ。しかし共産運動の道具として使用するのさ。」と言う人もありますが、私は良心の呵責と云うのでしようか、其様な事を言う気にはなりません。最後に共産主義者として言ひたい事は、変に思想がぶれをされ、深刻ぶつたマルキストはお笑いだという事です。そんな人に限つていざという時に手のひらを返した如く裏切り易いのです。なぜなら彼等は物事をあまりに安易に考

えてゐるから。換言するならば彼等はあまりに小児病的でもあります。と云つて共産主義について行けない人達なのです。

戦時中は八紘一宇の聖戦のと言つて、科学に目をつぶり、精神力を強調していた人達が、戦後手のひらを返す様に左翼がかつた言辞をもてあそぶという風潮を見かねた折、良心的な共産主義者の一員として敢て一言述べた次第であります。

一九六四・十一・八

なんとなく寂しくわれは涙せし

白朝顔のひとつ咲けるも

## 短歌

朝まだき夏の匂いの庭に居し

君と会うとは思ひもせずには……

(数永伸子)

## わらい話？

これは文化祭アンケートから集録しました。

なにもマネをしるというのではありません。でもあまりおもしろかつたので。

ぶんかさいあんけいと

一、あなた自身今までの文化祭は楽しかつたですか。それとも楽しくなかつたですか？(二・三年のみ)

① 楽しくなかつた……(X)  
② 楽しくなかつた……(O)

二、一で②と答えた人に質問、なぜ楽しくなかつたのですか。

○ お腹が大きくなりませんでした。私は、カステラの欲しい人はこへ並んで下さいと言われたので、みんなと並んでいました。私の番が来たので、手をだすとはつたおされました。(かよわい女の人に私はお金を持たずに行つたからでした。

○ 危険だった

皆と一しよに楽しくクラブの展示物を見ていました。生物部にカエルが居たので「カワイコちゃん、カワイコちゃん」といつて頭をなでていたところ指をかまれてしまいました。イタイです。

三、それでは文化祭を楽しむためにはどうすればよいでしょうか？

あなた自身の意見を具体的に書いてください。(全員)

○ 朝からすぐにフオークダンスを始め、続ける。昼食も食べる時は



踊りながら。そして新しい踊りもする。同じ踊りばかりやっていると、私は恥かしい。

○ 大手前短大のあの娘が「……君……君、どうして貴男の学校はあんなの？ まるでお猿の盆踊り……」言われてガツクリした私。それ以来、フオークダンスの時は袋を頭からかぶっています。

四、その他何かあつたら書いてください。(全員)

○ 昨日○○さんと会いました。(会つたから書きました。はずかし、赤面)

○ その時、私達のベンチの横にゴミ箱がありました。(有つたから書きました。赤面)

○ 私と彼女と二人で書きます。「幸福です。」(あんたら書いて下さいと言うから書きました。赤面)

○ 文化祭二日間実施と一日実施、どちらに賛成？

○ 二日……(O) or course  
○ 一日……(X)

その理由を書く  
○ 文化祭があれば私は酒を飲む。やめられないネ、何あんたもそう？ それじゃ決つてるじやないですか。

○ 二日酔です。二日酔。頭がフラフラして勉強ができますか。二日酔防止のためにも二日制酸性。

ーオシマイー

### 校内行事案内

(七三ページのつづき)

のみ。応援に行くたのしみ。  
運動会 やぐらを組んで応援合戦。

(於本校)

文化祭 一日舞台(国民会館) 一日展示。文化系クラブ中

## ☆学者の夢より

### 醒めたカント☆

三年 直本真理

町の時計よりも正確だと言われたカントの几帳面な日課も、ルソーの「エミール」を読んだ時ばかりは、ついにり込まれて散歩の時間が来たのに気づかなかつた。それほどルソーの感化が偉大であつたと同時に、それに引きつけられたカントその人も、如何に深刻な人間味の所有者であつたかを反証するものである。彼はルソーによつて初めて学者の迷夢から醒めて真の人間たらしめばならぬことを自覚するに至つた。さすがに彼は単なる哲学者ではなかつた。彼当時のことを告白して、「吾々は論理的と倫理的との両方の根拠によつて、若い人たちに常識を尊べということを教えなければならぬ。……」

心。

予 競 会 三年生を追い出す会。

(於講堂) 参加自由。

耐寒訓練 マラソン。大阪城二(男)、一(女)周。(A)

するのはこの時。

その他に、バレーボール・テニス・バスケットボール・卓球・陸上・ラグビー・サッカー・ハンドボール・ソフトボール・コーラス・校内大会(昼食時、放課後) スケート教室(校官スケートリンク)

私自身は性向から言えば学者である。私は全身知識欲に燃え、知識を進めずには一刻も安心が出来ない。そして知識が一歩ずつ進んで行く毎に、いつも私は満足を感じず。かつてはこれが即ち人間としての誇りであると考え、そしてかの無学文盲の徒輩を軽蔑したものであつた。ところが、私はルソーによつて、この誤つた考えをすっかり正された。私の盲目的な誇りは忽ち消え失せた。そして私は、私の考えが他の何人の考えに向つても、それが皆、人間の権利を確立させる価値があるといふことを信ぜぬならば、私の如きは、実に普通の職人よりもはるかに無用な人間であると考えなければならぬ」と言つてゐる。彼はかくして、狭き主観を超越して、広き客観に進み得たのである。人間は人間として平等なることを認め得たのである。然しカントはヒウムによつて独断の夢から醒まされたと告白して遂にそのヒウムをも批判し、彼独自の哲学を打ち建てたと同様、

### 少し考えてみよう

二年 吉田春陽

大戦に敗れ一時大混乱の状態に陥つた日本も多くの問題をかかえながらではあるが、やつとここまで回復し、国民生活も豊かになつてきた。僕達もその恩恵を受け、殆んど、物の有難さを知らずに育つてきている。大人はよくこういう「今の若い者は贅沢だ。我々の戦時中に比べたら……」僕達はこれのお決まり文句をただうるさいな程度で聞き流すか。時代のズレだ

等と半分相手にしない調子でいる場合が割に多い。しかし内容を同じうしていても、こらいわれたならばどうだろう。「北海道を見よ、冷害におびやかされ学校へ弁当を持つて行けない子だつている。又、九州を見よ炭鉱が閉鎖され鉛筆さへ買つてもらえない子だつているんだ。それに比べて、おまえ達は……。」こころ切り込まれたら、理屈っぽい僕達も多かれ少なかれ兎に角考えざるを得ない。つまり「戦時中は」と大人のぐちに聞こえていたこともその基準を現代日本に移すことによつて生きてきたのである。

北海道の冷害にしてみても、その現状は、マスコミの力で国民には充分に伝えられている。そして人々はその悲惨さを知り「かわいそうに」と思うだろう。が、それだけでは、現状の悲惨さを本當に知つたのではない。つまりもつと主観的にそれを見、自分の問題として考えなければならぬというこ

がなくなつたら、もし着る物が、本が、……と考えていけば、少しでもその悲惨さが解つてくるだろう。それと共に、物の有難さを見出すことが出来るだろう。

諺にもあるとおり「物はなくならな」と、その有難さはわからない。」と言うが、そのまねをして、一日鉛筆を使わないでいるとか、昼食を抜いてみるなどといつていっているのではない。ただ、何事に於いても、必ず、それが自由に、ならない人が居るといふことを、考え、た上で行動し、と云うのである。苦しい生活と戦つていゝ人達は、天災の起つた地方にかかわらず、一般社会に沢山居る。そしてその環境にも負けないで強く生きていゝ人達が沢山居る。常にこの考えを持つて物事を観なおしたならば、少しでも生活は豊かになるのではなからうか。近頃、青少年の不良化防止が叫ばれているが、その第一の原因は、貧しい家庭環境が挙げられている。しかし貧しき度合は何で表す

か。何を基準にするかと言つて案外、やふやなものである。ぐれていく人達は、殆んど、自分が世の中で一番不幸だと思ひこんで、やけになつて誤まつた道に走つた人達だ。こんな人達が少しでも、さつきの考え方をもつて物事を見れば、その環境にうち勝つて生きる人が沢山出てくるのではないだろうか。すなわち、貧しい——という言葉は、予防を呼びかける一方、不良化を進めることもある。又、本當の予防は、物の有難さを本當に解かることにある。ということであるのではなからうか。少し考えてみよう。

## 宇宙

子美由井安三年

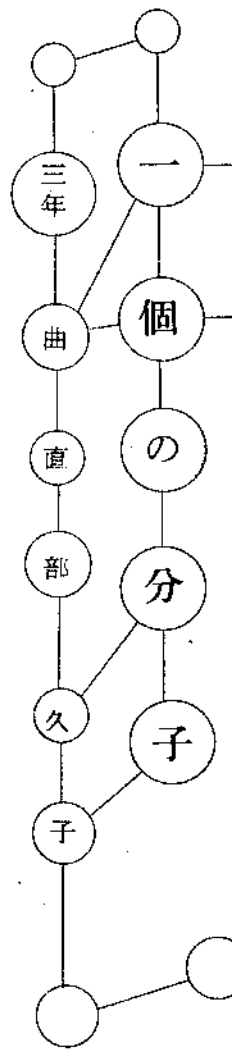
私は時々夜の黒々とした果てしなく続く空を見る。この空は一体どこまで続くのだろう。

時代と共に人々の宇宙観も変遷した。古代の民族はそれぞれ特有の神話に立脚した神話的宇宙観をもつたという。地球が中心の天動説だ、太陽が中心の地動説だと論議の火花を散らしあい、恒星が実際に散りばめられた球面を空想した中世の人々。そして現代。人間はその宇宙に人工衛星を又月ロケットを発射さす。昔から我々に果てしない夢と想像力を与えたこの宇宙。宇宙の中の人間とは一体何だろう。私は昔、

本で読んだことを覚えていゝ。宇宙には、地球や太陽やその他の恒星が存在する銀河系。更にこれに匹敵するぐらゝの大きさの銀河系外星雲が多数存在するのだという。してみれば宇宙と人間とはあまりにもかけ離れすぎる。人間からみる微生物、いや分子、原子にも値しないのではないだろうか。その人間がお互に争つたり、泣いたり、喜んだりしている。考えればつまらないことだ。だが本當に人間はそれほど無力な、微少なものなのか。いや決してそんなことはない。それほど微少なのに、間が広大な宇宙に向つて現に月ロケットや、人工衛星を打ち上げているではないか。私は不思議な興奮を覚える。

だ……。私は思う。全人類が力を合わせて宇宙を愛し、研究する時が来れば、太陽系の内部のすみずみまで征服することは不可能ではないだろう。そして人類の夢は、太陽系をとび越え、恒星空間へ、更に遠い銀河系空間へとびひろがつていくだろう。その時にこそ本當に宇宙を征服できるのだ。宇宙もそれを願つていゝにちがいない。

だが一歩しりぞいて考える時、黒々として果てしなく続く空は私になお何事かを物語つていゝ。そうだ現代は、ただ単なる国力争いのための科学兵器製造の競争の場に利用してゝいるのにすぎないのだ。こんなことで、神聖で広大な宇宙を征服することはできないの



自分はこの世でただ一人なのか。いやそうではない。らばらの物体でしかないのだと思えてくる。小学校の頃友達とベチャベチャしゃべって、ふと話している自分は全く別人で、自分は外からそれを冷静に眺めているのではないかと思う時がある。皆の棄しそうな顔、しかし何か空虚なものを感じる。彼らは本当は何を考えているのか。三年生にもなれば、大学受験というものがひかえていてお互いの競争は増々激しくなるばかりだ。私達はお互いに競争相手である。そんな思いが私達のどこかに潜在しているのかもしれない。いいえ、こんな姿は受験ということによつてひき起される私達の一端にすぎない。「いくら否定したと思つていても、又もや、やはり人間はエゴイストで一人ぼつちなのかしら。」と疑わずにはおれない時がある。友達にいくら自分の考えを述べても、本当にわかるはずはない。それは、友達は友達であつて、自分自身ではないからだ。そんな事を考えていると、ストープの周りの友達は、皆心は遠く閉ざされて通う所のないば

私はずもつとしつかりしたものを持ちたかつた。そして幾度か教会に行つたものの、それは一種の社交場としてしか目に映らなかつた。祈祷書に書かれてある言葉を調子を合せて読み、座つたり立つたり、私は声を出して読むことができない程胸がつかつてきた。隣では熱心に祈つているのに、自分だけはまるで他の世界から彼らを眺めている様にピンと心に入つて来ないのである。

現在、葬式や大きな寺院、美術彫刻に示されるものは、決して宗教ではない。経を読み仏像に祈ることも。これがキリスト教、仏教など宗教と呼ばれるならば宗教など全く意味がない。戒律を作り、守ることなど、真の人間性を否定していることだ。

私はとうとう最後のものまでも捨ててしまつたのだ。全く自分自身で生きていかねばならない。この世で一人だ。ああ、何と苦しいのか。急に道標のない一点に立たされた様な気がした。いわゆる宗教的、道徳的といったものから全く解放されると、その自由がかえつて自分にとつて束縛となる。今までの基準が全くくずれてしまふ。今迄善と呼ばれて来たものが、裏返しに見れば、打算が潜在していたり、又或ものは人間の自然の欲求だから、それを無理に隠そうとすることこそ、自分をいつわることだ、などと思えてくる。昔(中世)は、個人的自由はなかつても、国家の成員として役割が決められていたし、神(仏)の下に、す

べてをゆだねていた。だから皆が兄弟であり、この様な不安はなかつたのだ。では、自分はいつたい皆の中から飛び離れてなぜ生きているのか。生きていること自体が無意味に思えてきた。そこにある自分は、人間の本質を忘れた一個の物体でしかなかつたのである。私達は全く自分一人ではない。とうてい生きていることはできない。一人一人は大きな物体と構成している一分子であつて、一つでは存在できないし、欠けることもできないのだ。人から離れることこそ不自然である。私達はこの大宇宙を動かしている無限の力の中に生きている。花をごらんさない。どうしてあの美しい色が作られるのか。それは色素があつて、原子や分子の種類や並べ方により、その原子は……と原因はつきないが、なぜその様な原因に対して、一定の結果が表れるのか、不思議だ。地球がこの大宇宙の一点を回つていろうこと、この想像もできない、えたいのしれない大宇宙を覆つている力ほこれこそ神と呼ぶべきものではないか。人間の様な姿をして寺院の中や、経の中にあるものではない。大宇宙に遍在して、私達をはぐくむ無限の力だ。その中に自身とびこんで、同化することこそ神を信じていることだ。私達はこの無限の力にはぐくまれて、お互いに、人間という兄弟の一員として生きねばならない。

苦惱について

苦惱は本来健康なものではない。苦惱は人が不健康より健康へ、不安定より安定へ、そして他律から自律へと移り変わる良なるプロセスにおいて常に見られる。その場合苦惱はより高いものへの移行過程としての意義をもつ。しかし苦惱それ自体に意義があるのではない。苦惱を感じることから自己分裂をし不健康さを知ることができる。かような見地から苦惱を捕える限りにおいてそれは意義を持つのである。その意味で苦惱は自己の自己への赤信号であり得る。苦惱は常に自己分裂に由来する。それ故その解決には決断の勇氣を持つて自己統一を図らねばならぬ。

ピカソ展に

ピカソ展に行つた。多くの絵がならんでいた。変な顔、むくんだ手足、ねじけた胴、何一つ尋常なものはない。返實際のところ、僕はそれらを美しいとは思わなかつた。返つて生理的な不快感を、ある絵においては反撥さえ感じた。

ただ感じたのはそれらが実に破壊的であるということであつた。僕は彼の絵よりもそのそばに貼られた彼の言葉により興味を引かれた。その中でも既成概念の打破、真の美云々の言葉が印象に残つた。それらの言葉からこの破壊は既成概念打破のための方法であることが分つた。当時僕は夏目漱石の作品を愛好していたが、彼とピカソの間にある類似点を感じた。漱石が文字を舞台にありのままの自我表現を人間研究の一方としたようにピカソは絵画を舞台に破壊を真の美追求のための方法としたのだと思つた。両者は共に文学、絵画を自己の生き方という次元にまで逆上つて捕えている。僕はこの人生態度に共通するものを感じたのだ。美の原点を探し求める方法としての破壊は実に美の創造のための方法でもあつた。あたかも近代思想における既成思想への懐疑のごとく。ピカソ展で学ぶべきはピカソの絵の美ではなくピカソの生の美ではあるまいか。

カフカ「変身」を讀んで

この巨大な褐色の虫とは第一次大戦中における作者心理の象徴であると思う。戦争はその中間に既成のすべての物について再評価を強要する。そこで起るのはすべての価値基準の転倒であり、それ故の人間不信—ニヒリズムである。この虫はそのニヒリスティックな作者の孤立感を表わすものではあるまいか。いかに努めても褐色のからという決定的な壁を持つ虫と他の人間とは一体になれない。この孤独感ではあるまいか。変身の理由は記されていない。まづ変身という否定出来ない事実がある。その変身という事実の前にだええる心を描いている。グロテスクで不可解で嘔吐を催す崩壊的な—おそらくは作者自身にとつてもそうであつた—この虫は戦争という現実の前に立ちすくむ作者自身であつたらう。作者はこの変身を理由づけようとはしなかつた。ある意味で自己欺瞞を恐れたのだ。それを事実として、現実として、何物にも先行するものとして捕えようと努めている。あるいはそれは作者の破壊を招くかもしれないなかつたのに。しかし作者はそれを乗り越えつつあつたのかもしれない。なぜなら褐色の虫の死こそ次時代へのプロローグととれるからだ。事実の確定的認識こそすべての問題解決への第一歩であるからだ。変身すなわち変心である。

疑う事

疑う事を知らぬ者は自己の限界を知らぬ。その意味でこらまんである。疑う事を知る者はやがて自己の限界を知る。その意味でより大人である。

欲について

欲は往々にして苦しみを招きます。なぜなら欲は自己権力の増大を求める外向的なものでありやすいからです。そして自己権力増大の欲求は現実無視という盲目的なものになりやすいからです。この現実無視こそ苦しみの決定的要因なのです。欲の夢見る世界と現実との対立が苦しみを招くのであります。人はこの苦しみから抜け出るためにはこの理を悟らねばなりません。又当然そうすべきです。なぜなら外への欲は常に自己に対する無知に由来するからです。欲は常に自己の内へと向うべきです。自分自身こそ自己に与えられたる無限の可能性の世界でありますから。

学問と私

人間は未知のものである。すべての学問は人間と人間の間の世界についてより知ると、より理解しようと進歩して来た。しかし学問がいかに進もうと人間それはまだ未知のものである。私は私がこの未知なる人間であり、すべての学問に先行するものであると知つた。学問は常に私にと

つての学問でなければならぬ。学問あつての私ではなく私あつての学問である。学ぶ、それは私の学問の再創造でなければならぬ。

### 偽善について

自分で自分を偽善者と感ずる時そして自己嫌悪の感情をいだく時、又人を偽善者と感ずる時そしてその人に対し軽侮の念をいだく時、私は私を正しく見つめていない。偽善は常に自己内部の矛盾に由来する。偽善は常に自分自身に対する無知に由来する。偽善は常に私自身の内に帰するべきものである。

### 三木清「人生論ノート」を読んで

孤独の真の認識が我々の孤独を越える唯一の方法であるというのは本当であろう。我々が孤独を悲しいもの、寂しいもの、それ故美しいものとして捕える時、そこには感傷がある。孤独の認識はあくまで真の現実把握である。感傷やその他の感情とは本来別なものである。しかし孤独を孤独としてそのままの姿で捕える事のいかに難しいことか。私は虚無の中の点である。そして虚無は私の条件である。では虚無とは何か。私はそれを私の外たるもの、我でないもの―すなわち世界として五感を通じて、否、我が在るといふこの最も根本的な事実からして逆説的に全体的に把握

している。虚無はあくまで私の存在の条件である。我が在るとはすなわち我が虚無を知ることには外ならない。我なくして世界なく、世界なくして我はない。「天上天下唯我独存」という禅の悟りの謎もここにひそむのではあるまいか。「世界に自分という人間が一人しかない」といふ誇りもこのような意味においてではあるまいか。我とその条件とはあくまで異質のものである。我を真の実在とするならば虚無はその属性にもあたるものである。ここに我と世界との関係が建立されるべきである。世界あつての我として我を捕える事は愚かな事である。又我のみ故に世界を否定したとてこれまた愚かな事である。世界の否定すなわち我の否定に等しい。我を認め、世界を認める。しかし動きは常に内より外へ、世界へと発すべきである。外よりの力のみにて動く時、それは私の放棄に等しい。このような意味において生は創造力とも虚無からの形成力とも呼ばれる。

### 恐れについて

世に恐れを知らぬ者があるような。しかし本当に恐れを抱かぬ者などこの世にはいない。もしいたとしてもそれは無謀者にすぎぬ。恐れは常に未知のものに出合うとき人の抱く感情である。恐れは常に克服されるべきものである。恐れが克服されぬ限り、人はそれを真に知つた事にならぬ。人は恐れを抱くか、否かによつて判ぜられるべきものでは

ない。人がいかにそれを乗り越えるかによつて判ぜられるべきものである。恐れは本能的なものである。しかしそれを克服する力はより人間的なものである。恐れはそれ自体不健康なものではない。しかしそれを克服する力はより人間的健康に由来する。この克服力こそ勇氣と呼ばれるものである。

巨大な建築物を見るとき、私はそれを破壊したい衝動にかられることがある。その時、私はそれが人間の創造物とは感じぬ。それが生の創造であるとは感じぬのだ。それは死そのもののように感じられた。私は建築物に、あのコンクリートの塊に恐怖を感じたのだ。緑をもたぬ建物。その中の人間。規格化された人間。あまりに分化した職務。全体を把握できぬ構成分子の不安。まさしく人間の敗北？

機械文明の中にある近代人のニヒリスティックな病的状態のもつともよく見られるものは反抗のための反抗によつてしか生を確認できぬ事である。

### 容姿について

容姿の悪い者は幸いである。

なぜなら自己を見出すことが容易でありやすい。容姿にまよわぬ者は自律的である。なぜなら彼は虚無の中に自己を求めていない。彼は自らの限界を知っているのだ。

自らの容姿を愛することの出来る者は幸いである。なぜなら彼は健康である。彼は自らを尊重することを知っている。人間平等の精神とは人間の均等性から来たのではなく、人間の個性尊重―個人尊重―人間の不可否性から来たのである。優等生の優越感と劣等生の劣等感とは共通な点が見られる。それは成績という名の価値基準を持つことである。富者と財者との金欲についても同じことがいえる。

### クラブ機関誌

近日発行 !!

◎ 文芸部 「桐文」・詩集「新風」

◎ 社研 「霧笛」・「新世代」

◎ 生物 「CELL」 既刊

◎ 地歴 「いにしへ」

「御期待下さい」

# 高校生総立ち運動のすすめ

高校生徒の殆どは、電車やバスで通学しているし、高校生なら乗物を利用する機会が多くなるだろう。その時、我々高校生が一寸ガマンして立つたまま、いようという「高校生総立ち運動」が序々に全国で盛んになつてきた。

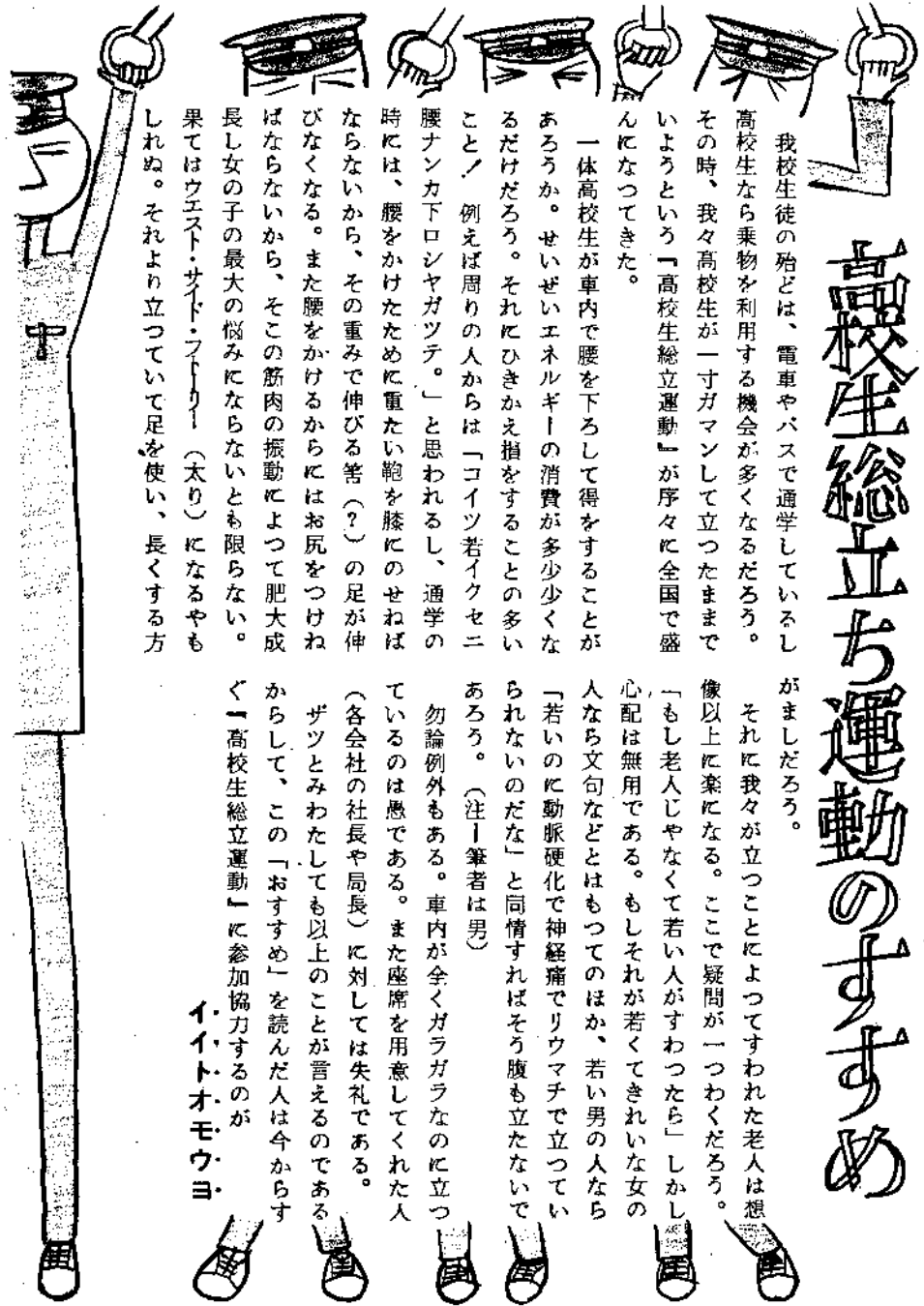
一体高校生が車内で腰を下ろして得をすることがあるか。せいぜいエネルギーの消費が多少少くなるだけだろう。それにひきかえ損をすることの多いこと。例えば周りの人からは「コイツ若イクセニ腰ナンカ下ロシヤガツテ。」と思われるし、通学の時には、腰をかけたために重たい鞆を膝にのせねばならないから、その重みで伸びる筈(?)の足が伸びなくなる。また腰をかけるからにはお尻をつけねばならないから、その筋肉の振動によつて肥大成長し女の子の最大の悩みにならないとも限らない。果てはウエスト・サド・フリー(太り)になるやもしれぬ。それより立つていて足を使い、長くする方

がましだろう。

それに我々が立つことによつてすわれた老人は想像以上に楽になる。ここで疑問が一つわくだろう。「もし老人じゃなくて若い人がすわつたら」しかし「若いのに動脈硬化で神経痛でリウマチで立つてられないのだな」と同情すればそう腹も立たないであらう。(注)筆者は男)

勿論例外もある。車内が全くガラガラなのに立っているのは愚である。また座席を用意してくれた人(各会社の社長や局長)に対しては失礼である。ザツとみわたしても以上のことが言えるのである。からして、この「おすすぬ」を読んだ人は今からすぐ「高校生総立ち運動」に参加協力するのが

イイトオモウヨ



## 関係のない話

カギモトキヨシ

つい先日、向いの家の六つになる女の子に、しんでれら姫の話をしてあげた。初めはおとなしく聞いていたのだが、終りに近づくにつれてもそもそしはじめた。終つてすぐさま、目を輝かせてこんな質問を浴びせかけた。「お兄ちゃん、しんでれら姫、かれえらいす好きだったの?」

私の空つぽの頭でも次の事はわかる。確かに適切な判断であり処置ではある。しかし、決断ではない。温情ではある。しかし、人間味は感じられない。(増して私は正常者なのだ。事実と心理との食違いを解消できると思うのか?)

日記にこんな事が記してあつた。いつつて? 一九六三年十一月十三日。

クラブと勉強とは両立するか? てな問題について論議されることがある。現実に両立させている者もおれば、させ

られない者もいる。両者がまたプラス傍観者が入混じつてゴチャゴチャ討論し合い、結局次のような結論らしきものに到達する。クラブと勉強との両立は、各個人が各個人なりの、即ち自分に最も適した肉体的精神的えねるぎの配分を体験し、実施し続ければよいと。ここまできて、理論家じみた者は、「ふふん、何じやい。こんなことぐらいわかりきつとるわい。アホらし。」となる。これでいいんじやるか、一体。

### 四

コトバに関するお話し。  
そのいちーええエー、そくらてすの言う無知の知はアー  
...あれあれ、無知の知を知として売つてる。  
そのにー生は死の意識あつての生でありましてえエー:  
...このおつさん、生きてんねんやるな。  
そのさんー愛してる?どれぐらい?...どれぐらい  
? アホらし。接吻でもしてごまかしといたれや。  
その...:.....

おチヨくつてゐる奴(この俺サマ)は薄つべらなやつだ。フオークダンスを開催した時のことですがア、踊りそのことはさておいて、人類の歴史上の三つの武器(手と道具・火・コトバ)のうち前二つはズイブン進歩した。しかし、コトバは？ 正直言つてわからないと答えるのが妥当である。現在、言語哲学が確立されて、コトバの歴史・本質・機能等が明確にされてきている。しかし、コトバではどうしても打壊せない壁がある。完全という壁である。完全な意志の疎通、コトバによる完全な芸術、感情・行為の表現……ない、存在しない。何もキバルコトハナイつて？ 世ノナカニハ、完全モ絶対モアリエナイつて？ コラエテ、コラエテつて？ そうしましょうか、ほんと。でもさあ、せめて言語表現革命ぶれりゆうどだけでもさあ、誰か聞せてくれないかしらん。次はオマケ。心情だけでもわかってくれよな。Aは、如何に偉大な人間にしろ人間の上立つことはよくない、と常々思つていた。タマタマ、Aは、BがCを侮辱している場面に出食わした。Bの口調がドギツすぎたので、AはBを諷めた。「B君、君はそれほど立派な人間なのか」。言つてしまつてからAは己を悲しんだ。俺はそれほど立派な人間なのか。

(五)

ええエ、お笑いを一席。各人には常に各人なりの言分があります。エ、卑近な例で申しますと、私はまあ現在、集會部長であります。ア、十月三十一日文化祭初日の午後、

と怒鳴られたア(私は誰を怒鳴つたかアとんと知らないのだがア)者は勿論、そうでない者でもムカツ腹が立つといろのでありました。ナルホドこいつアすまなかつたアと思ひましてエ、この一見不真面目なア謝罪文を書くに至つた次第であります。こちらの首分じやない言訳を二言言わせてもらつとオ、プレーヤーの故障だとお言つたのはアマチガイでエ、過熱によるアランプの故障のためでありましたア、そのためエ、マイクでエ知らせる事も出来なかつたのであります。プラス、あの日はア、朝つばらから頭に怪我をしたリイして気分が優れなかつたのとオ、フオークダンスへの私の劣等感も手伝つてエ、オマエロデヤレツヤレツと言われたアときイ、このヤロウ、調子に乗りやがつてエ：とまああとは御存知の通りであります。以下ア、真顔で謝罪しますウ。

あのときは私の方が全面的に悪うございました。多くの人に不愉快な思いをさせたことを改めてお詫びします。

(六)

現代つ子として物申す。親にしてみれば自我に目覚めた子供は扱いにくく、自我に目覚めた子供にしてみれば親はいやなむしる無量の存在である。お互いに釋験のある所であると思う。次に人間として物申す。その際、母(父)は単に生殖体としての雌(雄)を意味し、母(父)親は生殖体十本能十人間性を意味するとする。

六才頃までは、表面的にも内面的にも母親であれ、しかし、強烈に自我に目覚め主張してくる十二・三才以降は、彼を力強い一個の人間とすべく、表面的には極力母であり、専ら内面的に、しかも子供に圧迫感を与えないほど静かに母親であれ。現実上は母と母親とが複雑微妙に融合しているから、先のコトバは一人の現代つ子が吐いた親の愛の有難みをわきまえぬ暴言にしか思えない。実際そうである。しかし、幾らかの真実味を含んでいることも否定できない。三の文章と共にパーセンテージの問題を扱つたのもりである。クラブに何%のエネルギを費すか、表面的に何%の母たらんと努力するか。これらは無論肉眼には見えない。しかし、正常の人間ならば、いい意味でいいものを感受し、感得していくだろう。

今一度母と母親との問題に帰ろう。一般に日本の我子を持つ女性は、内面的にも表面的にも何%の母親たらんとする。余りに母親であろうとしすぎる。愛情は降る霧雨の如くに、ならばばばらしいのだが、まるで、愛情は降るドンヤ降りのおく、である。親は降らせる愛情に、事欠き出し、子は愛情の圧迫感に耐えられない。親は、これほどまで愛しているのにこの子はどうかしてころなんだろうと嘆き、子は、愛の押し売りなんかしやがつてととなる。悲嘆の内に親は死ぬ。子は子で、軟弱な人間になり下がつてしまふ。女性よ、もう少し、少くとも表面的には母であるべく努力すれ

の輪も大きくなりましてエ、興も乗り出したとき突然音楽が切れちゃいましてエ、仲間がプレーヤーがダメになつちまつたらしい。続けられそうもない。この旨を皆に伝えて来てくれやア、とまあ私がそのイヤなお役目をお仰せつけられましてエ、でな訳でこれで解散ですツとガナリますとオすかさずどこからかア、オマエロでヤレヤレツでな声がとんできましたエ、何じやいこのアンボンタンヤロウツてそのときはムカツと来ましてエ、持前のデツカイ声で黙れと怒鳴つたのでありますア。と、ナンヤオマエヤンノ力と誰かが力んでいきまいたのでありますア。あら、こら変なことになつてしまふたわいと思つておりますとオ、先の男が、ヤンヤンヤツタラヤツタルデエと意気盛ん。回りの二三人が、ヤメトケヤメトケ、コイツスグ頭ニクルヨツテナア……その時はア、不隠な空気をチヨツトばらまいた程度で終つてエ、その後も何事も起りませんでしたア、のちにイ三年生の文化祭アンケートをペラペラ読んで行く中にイ、四・五枚おもしろいのを発見したのでありますウ。一枚はアどの質問にでも集會部長が悪かつたアてな意の文を書きし書いておりましたエ、他の四枚は、冷静な理由をつけて集會部長が悪かつたこととお証明していただいたのでありますウ。彼らの言分はア、私の態度がア、マイクで理由も言わず突然しかもオ余りに変ビシヤでエ、黙れ

はどうだ。表面的に親であることはつとめてさけていけばどうだ。ドジャ降りの愛では子供は正常に、立派に育たない。ドジャ降りの愛では子供はだんだん腐っていくものだ。しかし、こうも言っておれない家庭が多くあることは哀しむべきことではあるけれども。以上はタフ言である。皮相的な親子論である。しかも、僕は言いたいことの千分の一も言つてやしない。しかし皮相的な故にあなた自身もつと発展させ深く掘り下げ、何らかの解決を見出すことを期待してやまない。

#### (七)

水族館に鯨のほるまりん漬けが六体並べてあつた。以下はそこでなされた一組の親子の会話である。――

「ほら、坊や、あれを見てごらん。坊や、鯨を知つてゐるね。鯨がだんだん大きくなつていつてゐるだろう。どんなにして鯨が大きくなつていくかがよくわかるね。」「うん、でも、あの鯨、動かないや。それに、プヨプヨしてさ、まっ白だよ。なぜなの。僕ちやんが前に見たの、もおつと大きくてさ、黒くつてさ、動いていたよ。」「ふむ。あのね坊や、それはね、あの鯨は標本だからなのだよ。赤ちやんだからあんなに小さいのだよ。そしてね、坊や、あの鯨は死んでるんだよ。だから動かないのだよ。わかつたかい？」「あの鯨、死んでるの。どうして死んだの。」「さあ、自然に死んだのかも知れないし、標本にするために殺したの

かも知れないね。」「死んでるの、殺したの、僕ちやん、可愛そう。僕ちやんの標本作るのなら、僕ちやん六人要るね。僕ちやん六人要るね。僕ちやん、六人どうして作るの。」

#### (八)

AはZを○だといひ、BはZを△だといひ、CはZを×だといひ。ZがCに腹を立てるのは馬鹿げている。またAを愛するのもおかしい。究竟○も△も×も自分なのである。介在としてAがBがCがいるとしても、○も△も×も自己なのである。Zよ認めなさい。そして知りなさい。○を通じてAが、△を通じてBが、×を通じてCがどんな人間であるかを。世に理解という体裁のいいものはないということを。各人なりの理解、きこえのいいように言つても部分的理解は理解ではないことを。理解は誤解なのだ。しかし認めてあげなさい。誤解は理解に他ならないのだから。

#### (九)

書いた書いた。ケツチツツなことばかりを。読みかえしてみると、実に下らんことが書かれてある。もつとも僕の場合は書いているときも常にそういう意識が働いていないのだから。ああ、しんど。

## 失敗の記

このスプリングは失敗だ。今更謝つても何にもならないだろうが、次に発行される(かどうかわからぬが)スプリングの参考にもなればと思つてこれを記す。技術面の失敗も多々あつたが、紙数がないのでここでは省く。

最大の失敗とは何か。それはこれが「少人数」の手で成つたということである。原稿も、編集も、ことによつたら読者まで少人数ですまされ、スプリングが皆から浮いた存在になつた。「少人数」が、今の役員にとつて最大の悪であることは言うまでもない。なぜそうなつたか。少し弁解するを許していただきたい。我々は最初スプリングを、新学期になつてはじめる新しい活動のための手段と考えていた。どんな活動かは「特集」を読んでいただければお解りになるだろう。スプリングを簡単に発行して口火を切り、

「ところ少人数が崇つて編集は手間取る、原稿は纏まりがない。それで発行が後れる。ここですべては挫折した。もつともつと読者にお許し願つて、こうすればよかつたと愚痴めいた事をお聞き願いたい。我々の学園には問題が常にある。その多くはみんなとことんまで話し合ねばならないものである。そんな時にこそスプリングが必要なのである。(原則論)。スプリングは議論を沸騰させるた

めの手段でありまた沸騰した湯気の立ち昇る所である。

まず第一に問題をキヤツチする事。それを座談会、総会、あらゆる手段で温める事。温まりだしたら始めてスプリングの編集に取掛かる。それには出来る限り大多数でする事。(クラスにスプリング委員を創けて、彼らがクラスで座談会を開きクラスを盛り上げその中で原稿を集める。)編集者は常に議論の中心人物でなければならぬ。また多数ということにはスプリング編集そのもの持つ「経験」という意義を忘れてはならない。また上のことをなすのに議論を前期、発行を後期という形にすれば最高の出来。かくある事によつてスプリングはこのような紙切れでない、本当のSPRINGになるだろう。

それから、もう一つこのスプリングの(今の自治会のかもしれないが)物足り無いのは、現在特に見立つてきた反動教育また世間一般の反動の動きに対し誰も関心を払つていない事である。学校を論ずる者にこの声がないのはどうした事だろう。いけない事というより危険な事だ。このことに無関心であるとスプリングの特集にあるような声が、反動家達によつて悪用され「戦後教育の否定」の材料になりかねない。要注意。

(碩記)